

### 和仏法律学校講義録

掛下, 重次郎 / 山口, 弘一 / 金井, 延 / 杉本, 貞治郎 / 赤  
司, 鷹一郎 / 栗津, 清亮

---

(出版者 / Publisher)

和仏法律学校

(巻 / Volume)

2-24

(開始ページ / Start Page)

1

(終了ページ / End Page)

55

(発行年 / Year)

1901-01-25

# 和佛法律學校

## 講義錄

第貳部

第貳拾四號

商法會社(完) (自一四八) 法學士杉本貞治郎

表紙及目次 四頁

商法商行為 (自一九〇) 法學士赤司鷹一郎

商法保險 (自一四八) 法學士粟津清亮

商法海商 (自四三) 法學士掛下重次郎

經濟學總論 (自一五三) 法學博士金井延

國際私法 (完) (自三八七) 山口弘一

表紙及目次 八頁



# 法學志林

第十五號

一月二十日發行

每月一回發行  
定價一冊金拾錢郵稅一冊金壹錢十冊前金壹圓郵  
稅不要  
校友生徒校外生ニ限リ

特價一冊八錢郵稅壹錢十冊前金六拾錢郵稅不要

我邦ノ郵便電信事業 法學士下村宏 ●外國制度ノ研究ニ付テ、法學士松波仁一郎 ●法律ト商人、法  
學博士梅謙次郎 ●募

法人人格ノ觀念(續) 杉山直治郎

共有ノ性質ヲ有セサル入會權ノ登記、法學博士梅 謙次郎

緊急勸令論、校友守谷富之助

○判例ニ關シテ、公法上ノ最用○大審院ニ事部ノ改良○刑法改正論者ト非改正論者○刑法改正反對ノ編纂○珍  
ラレテ、吾邦ノ效力○別本世紀ニ於テ、英國海關ノ膨脹○刑罰ニ對シテ、露國○多數ニ人ノ支拂人ヲ指定○珍  
ニ爲キ、吾邦ノ效力○別本世紀ニ於テ、英國海關ノ膨脹○刑罰ニ對シテ、露國○多數ニ人ノ支拂人ヲ指定○珍  
關スル政府委員  
○記者

○疑難案件試驗問題及ヒ答案 ○校友會評議員選出 圖書閱覽室資金附寄者名

## 發行所

東京市麴町區富士見町六丁目  
電話番町一七四

司法省指定

## 和佛法律學校

サナレハ株主ニ配當ヲ爲スコトヲ得ス即チ損失アル會社ニ在リテハ株主ニ  
些ノ配當ヲ爲スコトヲ得ス否此場合ニ於テハ配當スヘキ利益ナキナリ  
貸借對照表ノ結果利益アルニ非サレハ配當ヲ爲スコトヲ得サルノミナラス會  
社事業カ年ニ依リ時ニ隨ヒ或ハ利益ヲ得或ハ損失ヲ被ルコト免ルヘカラサル  
ノ數ナリ故ニ利益アリタル場合ニ盡ク之ヲ株主ニ配當スルトキハ翌年ニ於テ  
損失ヲ生シタルトキハ之ヲ填補スルニ途ナク忽チ資本ノ缺損ヲ來スヘシ故ニ  
法律ハ株式會社ニハ特ニ法定積立金ノ制ヲ設ケ利益アリタルトキハ必ス其二  
十分ノ一以上ノ金額ヲ積立ツヘキコトヲ命ス此積立金ハ資本金額ノ四分ノ一  
ニ滿サルマテ之ヲ積立テサルヘカラス又會社方面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ  
發行シタル場合ニ第一回ノ株金拂込ト同時ニ拂込ムヘキ額面ヲ超エタル金額  
(第一二九條第二項)ハ之ヲ法定積立金中ニ繰入ルヘキモノトス第一九四條  
法定積立金ハ資本ノ缺損ヲ填補スル爲メニ設ケタルモノナルヲ以テ資本ノ缺  
損ヲ填補スル場合ノ外之ヲ支出スルコトヲ得ス資本ノ缺損ヲ填補シテ積立金  
ヲ減少セシメタルトキハ更ニ之ヲ資本ノ四分ノ一ニ達スルマテ積立ツヘシ

090  
1900  
2-1-24

ナラレハ株主ニ配當ヲ爲スコトヲ得ス即チ損失アル會社ニ在リテハ株主ニ  
些ノ配當ヲモ爲スコトヲ得ス否此場合ニ於テハ配當スヘキ利益ナキナリ  
貸借對照表ノ結果利益アルニ非サレハ配當ヲ爲スコトヲ得サルノミナラス會  
社事業カ年ニ依リ時ニ隨ヒ或ハ利益ヲ得或ハ損失ヲ被ルコト免ルヘカラサル  
ノ數ナリ故ニ利益アリタル場合ニ盡ク之ヲ株主ニ配當スルトキハ翌年ニ於テ  
損失ヲ生シタルトキハ之ヲ填補スルニ途ナク忽チ資本ノ缺損ヲ來スヘシ故ニ  
法律ハ株式會社ニハ特ニ法定積立金ノ制ヲ設ケ利益アリタルトキハ必ス其二  
十分ノ一以上ノ金額ヲ積立ヲヘキコトヲ命ス此積立金ハ資本金額ノ四分ノ一  
ニ滿ラルマテ之ヲ積立テナルヘカラス又會社カ額面以上ノ價格ヲ以テ株式ヲ  
發行シタル場合ニ第一回ノ株金拂込ト同時ニ拂込ムヘキ額面ヲ超エタル金額  
(第一二九條第二項)ハ之ヲ法定積立金中ニ繰入ルヘキモノトス(第一九四條)  
法定積立金ハ資本ノ缺損ヲ填補スル爲メニ設ケタルモノナルヲ以テ資本ノ缺  
損ヲ填補スル場合ノ外之ヲ支出スルコトヲ得ス資本ノ缺損ヲ填補シテ積立金  
ヲ減少セシメタルトキハ更ニ之ヲ資本ノ四分ノ一ニ達スルマテ積立ヲヘシ



會社カ貸借對照表ノ結果損失アル場合ハ勿論利益アル場合ト雖モ法定積立金ヲ積立テスシテ利益ノ配當ヲ爲シタルトキハ會社ノ債權者ハ其配當セル金額ノ返還ヲ請求スルコトヲ得第一九五條

會社事業ノ性質ニ依リテハ設立後容易ニ開業ヲ爲スコト能ハサルモノアルヘシ例ヘハ鐵道運河等ノ如キ事業ノ準備ニ數多ノ年月ヲ要スルモノノ如キ是ナリ此ノ如キ事業ヲ目的トスル會社ニ在リテハ株主ハ第一回ノ拂込ヲ爲シタルニ拘ラス會社カ開業ヲ爲ササル爲メ利益ノ配當ヲ受クルコトヲ得サルヘキヲ以テ遠大ノ思慮アル者ニ非スンハ久シク之ヲ忍フコト難カルヘシ隨テ此ノ如キ大事業ヲ目的トスル會社ノ株式ノ募集ニ應スル者或ハ甚タ稀ニシテ以テ大事業ノ企圖ヲ空カラシメンコトヲ恐レ法律ハ設立ノ登記後二年以上開業ヲ爲スコト能ハサルモノト認ムルトキハ裁判所ノ認可ヲ得テ定款ヲ以テ開業ヲ爲スニ至ルマテ法定利率ヲ超ニサルノ範圍内ニ於テ一定ノ利息ヲ株主ニ配當スヘキコトヲ規定スルコトヲ許セリ第一九六條

利益又ハ利息ノ配當ハ定款ニ依リテ拂込ミタル株金額ノ割合ニ應シテ之ヲ爲

スヘト雖モ會社カ優先株ヲ發行シタル場合ニ於テハ優先株ニ特別ノ配當ヲ爲スハ妨ナシ第一九七條

資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ハ會社ノ業務及ヒ財産ノ狀況ヲ調査セシムル爲メ検査役ヲ選任スルコトヲ裁判所ニ請求スルコトヲ得ヘシ斯クテ選任セラレタル検査役ハ其調査ノ結果ヲ裁判所ニ報告スヘシ裁判所ハ此報告ニ依リ必要ト認ムルトキハ監査役ヲシテ株主總會ヲ召集セシムルコトヲ得第一九八條

此規定ハ必スシモ會社ノ計算ニノミ關スル規定ニ非スト雖モ主トシテ會計上ニ必要アルヘキヲ以テ本節ニ規定セシコトナランカ

### 第五節 社 債

社債トハ債券ヲ發行シテ募集シタル會社債務ナリ社債ヲ起スハ會社資本ノ增加ニ非ス債券ノ發行ニ因リテ得タル金額ハ會社ノ資産中ニ編入セラルヘキモ所謂資本ニ非ナルナリ然レトモ社債ハ實際ニ於テハ恰モ資本増加ノ如キ結果アリ何トナレハ之カ爲メニ會社ノ專業資金ハ増加セラルルナリ社債カ貸借對

照表ノ負債ノ部ニ於テ反對科目トシテ掲記セラルルハ恰モ資本カ反對科目トシテ計算セラルルニ似タリ舊商法第二〇六條カ之ヲ定款變更中資本増加ノ規定ト混シテ規定シタルハ甚タ杜撰タル體ヲ免レズト雖モ亦自ラ連アルナリ元來株式會社ノ責任ハ會社財產ニ限ルヲ以テ設ニ社債ヲ起サシムルハ第三者ノ爲メニ危險ナルノミナラス事業資金ノ増加ハ營業ノ方針ニ關スルコト大ナルヲ以テ株主ノ爲メニモ又資本増加ト同シク重大ナル事件ナリトス故ニ明治二十三年法律第六十號ヲ以テ社債募集ニ關スル手續ヲ規定シ債券ヲ發行スルニハ政府ノ認許ヲ要スルコト其他種種ノ監督規定ヲ設ケタリシカ新商法ニ於テ會社ノ設立ニ關シテ免許主義ヲ廢シタルト同様ノ趣意ヲ以テ債券ノ發行ニ關シテモ免許主義ヲ採ラナリシト雖モ商法中ニ於テ一節ヲ設ケテ嚴重ナル監督規定ヲ設ケ明治二十三年法律第六十號ヲ廢止シ唯商法施行前ニ債券發行ノ認許ヲ得タル場合及ヒ已ニ發行シタル債券ニ關シテハ一定ノ範圍内ニ於テ仍ホ此法律ヲ適用スルナリ(商法施行法第七六條以下)

上述ノ如ク社債ノ發行ハ重大ナル事項ナルヲ以テ總會ノ議決方法ハ資本増加

即チ定款變更ト同シク總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其出席員ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス(第一九九條)

社債ノ總額ハ拂込ミタル株金額ヲ超過スルコトヲ得ス第二〇〇條換言スレハ金額拂込済ノ場合ニハ資本總額ヲ超ユルコトヲ許サズ蓋シ社債ヲ發行スルハ會社自身ノ爲メニ重大ナルノミナラス第三者ノ爲メニモ亦甚タ危險ナリ故ニ會社ノ基本財産タル資本總額ヲ超エテラシムルナリ又金額拂込前ニ在リテハ會社ニシテ若シ資金ヲ要スルナラハ先ツ未拂株金ヲ拂込マシムルコトヲ得ヘシ然レトモ必ス金額拂込済ノ後ニ非テハ社債ヲ起スコトヲ得ストスルハ亦稍ヤ酷ナルヲ以テ其拂込額ヲ限度トシテ社債ヲ募集スルコトヲ得モシムルナリ唯或場合ニハ拂込株金又ハ資本ハ會社ノ損失ノ爲メニ減損セラレテ現存財產ハ却テ之ヨリ少キコトアリ而シテ社債ノ擔保タルモノハ此現存財產ナルヲ以テ此場合ニハ社債ハ現存財產ノ額ヲ超ユルコトヲ得ス

社債ハ債務ノ總額ヲ均一ナル金額ニ分割シテ募集スルモノナリ此金額ハ二十圓ヲ下ルコトヲ得ス(第二〇一條)社債ノ金額ニ此最少限ヲ定メタルハ株式金額

最少限ヲ設ケタルト同趣旨ニ基クモノニシテ其最少限ヲ株式ノ一時拂ノ場  
合ト等シク定メタルハ社債ハ必ス一時ニ全額ヲ拂込ムヘキモノナルヲ以テナ  
リ(第二〇四條)

社債ヲ募集スルニ往往社債權者ノ利益ノ爲メニ券面額ヲ超エテ償還スヘキコ  
トヲ約スルコトアリ是レ敢テ不當トスヘキニ非スト雖モ各社債ノ償還額ニ差  
等ヲ設ケタルカ如キ(例ヘハ勸業銀行社債割増償却ノ如キ)ハ恰モ富強ノ如ク募集  
ニ應スル者ヲシテ徒ニ投機心ヲ發起セシムルヲ以テ商法ハ償還金額ハ各社債  
ニ付キ同額ナルコトヲ要スト規定セリ(第二〇二條)

社債ヲ募集セントスルトキハ取締役ハ左ノ事項ヲ公告スルコトヲ要ス(第二〇  
三條)是レ募集ニ應スル者ヲシテ可成の會社ノ現狀ヲ知ラシメント欲スルナリ

- 一 社債總額各社債ノ金額社債ノ利率及ヒ社債償還ノ方法及ヒ期限
- 二 會社ノ商號
- 三 前ニ社債ヲ募集シタルトキハ其償還ヲ了ヘナル總額
- 四 社債發行ノ價額又ハ其最低價額

五 會社ノ資本及ヒ拂込ミタル株金ノ總額

六 最終ノ貸借對照表ニ依リ會社ニ現存スル財産ノ額  
社債ヲ募集シタルトキハ取締役ハ社債原簿ヲ本店ニ備ヘ置クヨトヲ要スルコ  
トハ已ニ之ヲ述ヘタリ(第一七一條)又社債原簿ノ記載事項ハ第七十三條ニ規  
定モリ社債ノ募集カ完了シタルトキハ取締役ハ各社債ニ付キ全額ヲ拂込リ爲  
ナシム蓋シ社債ノ募集ハ株式ノ發行ト異ナリ會社ノ基本タル資本ヲ増加スル  
ノ目的ニ非スシテ現ニ一定ノ金額ノ需要ニ迫ラレタルニ由ルモノナリ然ラハ  
其金額ハ全部直チニ必要アルナリ若シ直チニ全部ノ必要ナラサルカ如キ金額  
ナラハ必要ナラザル部分ハ之ヲ募集セシメサルヲ可トス社債全額ノ拂込ヲ受  
ケタルトキハ取締役ハ二週間以内ニ本店並ニ支店ノ所在地ニ於テ社債ノ總額  
各社債ノ金額社債ノ利率及ヒ社債償還ノ方法及ヒ期限ヲ登記スルニトヲ要ス  
(第二〇四條)

動債權者何時モ之ヲ記名債權ニ無記名式ト爲シ又無記名債券ヲ記名式ト爲  
 スルコトヲ請求スル權アリ(第二〇七條)又記名社債ノ讓渡ニハ讓受人ノ氏名住所  
 及社債屆簿ニ記載シ又其氏名ヲ債券ニ記載スルニ非テレハ之ヲ以テ會社其他  
 ノ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス(第二〇六條) 附屬債權ノ讓渡ニハ同イモ限  
 り(第二〇八條) 第六節 定款ノ變更

夫レ定款ハ會社法人カ依テ以テ行動スル所以ノ法則ナリ故モ容易ニ之ヲ變更  
 スルコトヲ許スヘカラヌ此ニ於テ法律ハ定款ノ變更ハ總會ノ決議ニ依リテノ  
 之ヲ爲スコトヲ得セシメ(第二〇八條)又總會ノ議決方法ヲ限定シテ必ス總株  
 主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以  
 テ之ヲ決スヘキコトヲ規定セリ然レトモ株式會社ノ株主ハ極メテ多數ナルコ  
 トアルヲ以テ或ハ此條件ヲ充タヌコト能ハサル場合アルヘシ而テ必ス此條  
 件ヲ充タヌニ非テレハ決議スルコトヲ得ストスレバ往往再三再四空シテ召集  
 ヲ爲ササルヘカラス是レ甚タ不便ナルノミナラス應急ノ事件ニ在リテハ其機

ヲ失フコトアルヘシ故ニ法律ハ定款ノ出席ナキ場合ニ於テ假決議ノ方法ヲ用  
 フルコトヲ許セリ即チ出席者定數ニ滿タサルトキハ出席シタル株主ノ議決權  
 ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲シ各株主ニ此假決議ノ趣旨ヲ通知シ且ツ無記名式  
 ノ株券ヲ發行シタルトキハ其趣旨ヲ公告シテ更ニ一箇月ヲ下ラサル期間ヲ置  
 キテ第二回ノ株主總會ヲ召集ス(第二回ノ總會ニハ定款ノ定ナキヲ以テ其出席  
 者ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ認否スルナリ但シ此假決議ノ方法ハ會社  
 ノ目的タル事業ヲ變更スル場合ニハ之ヲ用フルコトヲ得ス目的ノ變更ハ最モ  
 重大ナル事項ナルヲ以テ之ヲ變更スルニハ必ス總株主ノ半數以上ニシテ資本  
 ノ半額以上ニ相當スル株主出席シ其議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決スルコトヲ  
 要スルナリ(第二〇九條)

舊商法ハ定款ノ變更ノミナラス總テ總會ノ議事ニハ定款ノ出席ヲ要スルコ  
 トヲ規定シタルヲ以テ定款變更ノ外ハ資本ノ四分ノ一以上ニ當ル株主ノ出  
 席假決議ノ規定モ亦一般ノ總會ニ付キ規定シタリシカ新商法ハ普通ノ株主  
 總會ニハ定款ヲ規定セス然レトモ各定款ニ於テ普通ノ總會ニモ定款ヲ定ム

ルコトヲ得ヘシ隨テ假決議ノ規定ヲ設クルコト妨ナシ  
 定款ノ規定ハ所謂定款事項第一二〇條ナルト任意事項ナルトヲ問ハス法令ノ  
 範圍内ニ於テハ之ヲ變更スルコトヲ得故ニ目的モ亦之ヲ變更スルコトヲ得ヘ  
 シ會社ハ法人ナリ法人ハ一定ノ目的アルニ因リテ成立ス此目的以外ニ人格ナ  
 シ隨テ此目的外ノ行為ヲ爲ス權能ヲ有セサルヲ當然トス然レトモ此ノ如キハ  
 實際ニ於テ不便ナルノミナラス已ニ合名會社ニ於テハ當事者ノ意思ヨリ見レ  
 ハ組合ト異ナルコトナキヲ以テ之ニ目的外ノ行為ヲ爲スコトヲ許シタリ第五  
 八條然ラハ株式會社ト雖モ目的ノ變更ヲ全然禁止スルノ必要ナシ唯目的ノ變更  
 ハ極メテ重大ナル事項ナルヲ以テ假決議ノ方法ヲ用フルコトヲ許ササルナリ  
 商法カ目的ノ變更ヲ許シタルハ第二百九條ノ末項ニ依リテ明カナリ唯會社  
 ハ其組織ヲ變更スルコトヲ得ルヤ否ヤ組織ノ變更ハ全ク其法人ヲ別種ノ法  
 人ト爲スモノナルヲ以テ特ニ明文アルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得スト解  
 釋セサルヘカラス第二百五十二條ニ於テ特ニ株式合資會社ニ組織變更ヲ許  
 シタルヲ以テ見ルモ商法ノ精神ヲ知ルヘシ

定款ノ變更中特ニ説明ヲ要スルハ資本ノ増減ナリ資本ノ總額ハ定款事項ノ一  
 ナリ故ニ資本ヲ變更スルニハ定款ヲ變更セサルヘカラス  
 資本ヲ増加スル方法ニ種種アリ或ハ新株ヲ發行スルコトアルヘシ或ハ株金額  
 ヲ増加スルコトアルヘシ而シテ株金額ヲ増加スルハ各株主ニ株式以上ノ義務  
 ヲ負ハシムル結果ト爲ルヲ以テ總會ノ決議ニ依リテ株主ヲ強制スルコトヲ得  
 ス唯株主カ任意ニ之ヲ承諾シタル場合ニノミ行フコトヲ得ヘシ舊商法ニ於テ  
 ハ資本増加ノ方法トシテ明カニ株金額ヲ増加スルコトヲ許シタルヲ以テ總會  
 ノ決議ヲ以テ株金ヲ増加スルコトヲ得タリ然レトモ新商法ハ總會ノ多數決ヲ  
 以テ株金額ヲ増加スルコトヲ認メサルナリ  
 會社ノ資本ヲ増加スルハ株金ノ全額ヲ拂込ミタル後ニ非サレハ之ヲ爲スコト  
 ヲ得ス第二一〇條蓋シ會社カ資本ヲ増加スル必要ヲ生ヰタルハ營業資金ヲ増  
 大スル場合ナルヘシ然ラハ若シ從來ノ株式ニシテ未拂額アル場合ニハ先ツ之  
 ヲ拂込メテ後ニ資本ヲ増加スルモ妨ナカルヘシ一方ニ未拂込ノ株金アル  
 ニ之ヲ其儘ニ措キテ一方ニ資本ヲ増加スルハ其必要ヲ認メサルノミナラス往

往第三者ヲ欺クノ機械ト爲ルコトアルヘキヲ以テ特ニ之ヲ禁止セルナリ資本  
 ノ増加ハ恰モ株式會社ノ一部ノ新設ノ如シ株式會社ハ其會社財産ノ限度ニ於  
 テ責任ヲ負フモノナリ故ニ第三者ヨリ見ルトキハ會社財産ノ外ニ會社ナルモ  
 ノナキナリ是レ之ヲ物的信用團體ナリト謂フ所以ナリ特ニ新株式ヲ募集スル  
 カ如キ會社新設ノ場合ト殆ト同様ノ觀アリ會社ハ新株ヲ募集シタルトキハ先  
 ツ直チニ第一回ノ拂込ヲ爲サシメタルヘカラス第一回ノ拂込ハ株金額ノ四分  
 ノ一ヲ下ルコトヲ許サス第一回ノ拂込ヲ完了シタルトキハ取締役ハ連滞ナク  
 株主總會ヲ召集シテ之ニ新株ノ募集ニ關スル事項ヲ報告スルコトヲ要ス第二  
 一三條此總會ニ於テハ監査役ハ左ノ事項ニ付キ調査シタル結果ヲ報告スルコ  
 トヲ要ス(第二一四條)

- 一 新株總數ノ引受アリタルヤ否ヤ
- 二 各新株ニ付キ第一回ノ拂込及ヒ額面以上ニテ株式ヲ發行シタル場合ニ  
 ハ其額面以上ノ金額ノ拂込アリタルヤ否ヤ
- 三 金額以外ノ財産ヲ以テ出資ノ目的ト爲シタル者アルトキハ其財産ニ對

シテ與フル株式ノ數ノ正當ナルヤ否ヤ  
 株主總會ニ於テハ右ノ調査報告ヲ爲サシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任シテ之ヲ  
 爲サシムルコトヲ得ヘシ  
 金額以外ノ財産ヲ以テ出資ト爲シタル者アル場合ニ於テ株主總會カ之ニ與ヘ  
 タル株式ノ數カ適當ナリト認メタルトキハ之ヲ減少スルコトヲ得引受人ハ此  
 減少セラレタル部分ニ對シテ更ニ金額ヲ以テ出資ト爲シ其株式ヲ引受クルコ  
 トヲ得ヘシ若シ引受人ニシテ金額出資ヲ爲ササルトキハ取締役ハ第二十六  
 條ニ從ヒテ責任ヲ負ハサルヘカラス(第二一五條)  
 第二百十六條ニ依レハ引受ナキ株式又ハ第一回ノ拂込又ハ額面以上ニテ株式  
 ヲ發行シタル場合ニ其額面以上ニ保ル金額ノ拂込未済ナル株式アルトキハ取  
 締役ハ連帶シテ其株式ヲ引受ケ又ハ其拂込ヲ爲ス義務ヲ負フ株式ノ申込カ取  
 消シタルトキ亦同シ是レ第三百三十六條ニ規定セル發起人ノ義務ト同一ナリ  
 會社ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ召集シタル株主總會終結シタルトキハ二  
 週間内ニ本店及ヒ支店ノ所在地ニ於テ左ノ事項ヲ登記スヘシ(第二一七條)



一 増加シタル資本ノ總額  
 二 資本増加ノ決議ノ年月日  
 三 各新株ニ付キ拂込ミタル株金額  
 四 優先株ヲ發行シタルトキハ其株主ノ權利  
 右ノ登記ヲ爲スマラハ會社ハ新株ニ對シテ株券ヲ發行スルコトヲ得ヌ又株式引受人ハ之ヲ讓渡又ハ讓渡ノ豫約ヲ爲スコトヲ得ナリ  
 株券ヲ發行シタルトキハ第二百十七條ノ規定ニ依リ登記ヲ爲シタル年月日ヲ株券ニ記載シ又優先株ヲ發行シタル場合ニハ其優先權利ヲ株券ニ記載スルコトヲ要ス此他新株發行ニ關シテハ第二百二十七條乃至第三百十條第四百十條第一百四十二條及ヒ第四百十七條第二項ノ規定ノ準用アリ(第二一八條第二一九條優先株ハ特別ノ利益ヲ受クヘキ株式ニシテ會社カ資本ヲ増加スル場合ニ限リ發行スルコトヲ得ルモノナリ優先株ヲ發行スルニハ其旨ヲ定款ニ記載セテハヘカラス(第二一一條)  
 優先株ハ特別ノ利益ヲ受クヘキモノナルヲ以テ特別ナル利害關係アルモノナ

リ故ニ優先株ニ損害ヲ及ホスヘキ定款ノ變更ヲ株主ノ多數ヲ以テ議決セシムルハ妥當ナラス故ニ此場合ニ於テハ株主總會ノ決議ノ外特ニ優先株主ノ總會ヲシテ議決セシムルナリ株主總會ノ議決ト優先株主ノ總會ノ議決ト一致セザルトキハ定款ヲ變更スルコトヲ得ヌ優先株主ノ總會ニ關シテハ總テ株主總會ノ規定ノ準用アリ(第二一二條)  
 資本減少ノ方法ハ或ハ株券ノ金額ヲ減少スルコトアリ或ハ株式ノ數ヲ減少スルコトアリ株式ノ數ヲ減少スルニ或ハ抽籤ヲ以テ消却スヘキ株式ヲ定ムルコトアルヘク或ハ會社ヨリ買取ルコトアルヘシ凡ソ資本減少ノ決議ヲ爲シタルトキハ併セテ其方法ヲ議定スルコトヲ要スルナリ  
 資本ノ減少ハ會社ノ債權者ニ取リテハ擔保ヲ減少スルモノナルヲ以テ重大ナル事件ナリ故ニ之ヲ保護スル規定ヲ設ケテアルヘカラス是ニ於テ合名會社ノ合併ニ關スル規定即チ第七十八條乃至第八十條ノ規定ノ準用アリ(第二二〇條)

第七節 解散

會社解散ノ原因ハ大體合名會社解散ノ原因ニ同シ第七四條第二二一條唯合名會社ニ在リテハ總社員ノ同意ヲ解散原因ナリト雖モ株式會社ニ在リテハ總株主ノ同意ハ殆ト爲シ得ザル專柄ナルヲ以テ株主總會ノ決議ヲ以テ解散原因トセリ又合名會社ニ於テハ社員一人ト爲リタルトキハ解散ス之ニ反シテ株式會社ニ在リテハ株主カ七人未満ニ減シタルトキハ解散ス蓋シ株式會社ハ多數ノ人ヨリ資本ヲ集合スルニ便利ナルカ爲メニ認許セラレタル會社組織ニシテ少數ノ人ノ團結ナルトキハ之ヲ株式會社ト爲スノ必要ナキノミナラス却テ甚々弊害ヲ生スルコトアルヲ以テ七人未満ニ減シタルトキハ解散セシムルナリ

會社カ解散ノ決議ヲ爲スカ又ハ合併ノ決議ヲ爲スニハ定款變更ノ場合ト同ク總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主カ出席シ其過半數ノ決議ヲ以テ決スルナリ但シ假決議ノ方法ニ依ルコトヲ得ヘシ第二二條會社カ合併ヲ爲サント欲スルトキハ其旨ヲ公告シテ株主總會ノ會日前一箇月ヲ超ニテ其期間及ヒ總會開會中ハ記名株ノ讓渡ヲ停止スルコトヲ得是レ株主

變更ノ不便ヲ避ケル途ヲ與ヘタルナリ又合併ノ決議アリタルトキハ本店ノ所在地ニ於テ合併ノ登記ヲ爲スマラハ株主ハ其記名株ヲ讓渡スコトヲ得ス(第二二三條是レ第三者即チ讓受人ヲ保護セタルナリ又株式會社ニ在リテハ解散シタルトキハ破産ノ場合ヲ除ク外取締役ハ遲滞ナシ株主ニ對シテ其通知ヲ發シ且ツ無記名式ノ株券ヲ發行シタル場合ニ於テハ之ヲ公告スルコトヲ要ス(第二四條)

此他解散ノ登記及ヒ合併ノ手續ニ關シテハ合名會社ノ規定ノ準用アリ株式會社カ解散シタルトキハ取締役ナル機關ハ當然消滅ス何トナレハ取締役ハ會社ノ營業機關ナルヲ以テ會社カ生産力ヲ喪失シタルトキハ消滅スルナリ然レトモ會社ノ意思機關タル株主總會及ヒ會社ノ監視機關タル監査役ハ解散後ト雖モ清算ノ範圍内ニ於テ會社カ存在スル限ハ存在ス

第八節 清算

株式會社ハ解散後ト雖モ清算ノ範圍内ニ於テハ存續スルモノト看做シタルコ



下點ニ合名會社合資會社ニ於ケルカ如シ第八四條第三三圖條ノ旨ニ依リ  
 株式會社ノ清算手續ニ關シテハ合名會社ノ規定ノ多數ヲ準用シ得ルヲ以テ本  
 節ニハ單ニ株式會社ニ特別ナル事項ヲノミ規定セリ  
 合名會社ニ在リテハ定款又ハ總社員ノ同意ヲ以テ解散ノ場合ニ於ケル財産ノ  
 處分方法ヲ定ムルコトヲ許シ必スシモ法定ノ清算手續ヲ執ルヲ要セスト雖モ  
 株式會社ニ於テハ合併破産ノ場合ヲ除クノ外必ス法定ノ手續ニ依リテ清算ヲ  
 爲ササルヘカラス又合名會社ニ於テハ總社員カ清算ヲ行フコトヲ得タリト雖  
 モ株式會社ニ於テハ清算ヲ行フ者ハ必ス清算人ナリ而シテ定款ニ別段ノ定ア  
 ルカ又ハ株主總會ニ於テ特ニ清算人ヲ選任シタル場合ノ外ハ取締役清算人ト  
 爲ルナリ若シ又清算人タル取締役モナク定款又ハ株主總會ニ於テ選任シタル  
 清算人モ無キ場合ニ於テハ裁判所ハ利害關係人ノ請求ニ因リ清算人ヲ選任ス  
 (第二二六條) 三三三  
 合名會社ニ在リテハ清算人ハ就職後遲滞ナク會社財産ノ現況ヲ調査シ財産目  
 録及ヒ貸借對照表ヲ作りテ之ヲ社員ニ交付スルコトヲ要ス然ルニ株式會社ニ

在リテハ之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルナリ株主總會ハ清算人ヲ提  
 出シタル書類ヲ調査セシムル爲メ特ニ検査役ヲ選任スルコトヲ得清算人ハ株  
 主總會ノ承認ヲ得タルトキハ貸借對照表ヲ公告スルコトヲ要ス(第二二七條)  
 株主總會ノ選任シタル清算人ハ何時ニテモ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ解任ス  
 ルコトヲ得又重要ナル事由アルトキハ裁判所ハ監査役又ハ資本ノ十分ノ一以  
 上ニ當ル株主ノ請求ニ因リ清算人ヲ解任スルコトヲ得(第二二八條)  
 清算人ハ就職ノ日ヨリ二箇月内ニ少クトモ三回ノ公告ヲ以テ債權者ニ對シ  
 二箇月ヲ下ラサル期間内ニ其請求ノ申出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス  
 公告ニハ若シ債權者カ右期間内ニ申出ヲ爲サザルトキハ其債權者ハ清算ヨリ  
 除斥セラルヘキ旨ヲ附記スルコトヲ要ス但シ清算人ハ知レタル債權者ヲ除斥  
 スルコトヲ得ス知レタル債權者ニハ各別ニ通知シテ其債權ノ申出ヲ爲シタル債權者ハ  
 ルヘカラス清算人ノ定メタル期間後ニ至リテ請求ノ申出ヲ爲シタル債權者ハ  
 會社ノ債務完済ノ後未ダ株主ニ分配セザル財産ニ對シテノミ辨濟ヲ請求スル  
 コトヲ得ルナリ是レ民法第七十九條及ヒ第八十條ノ規定ヲ用シタル結果ナ

第二三四條

殘餘財産ハ株金拂込高ニ應シテ之ヲ株主ニ分配スヘシ面シテ株金ノ拂込高ハ定款ノ規定ニ依リ拂込ミタルモノナルコトヲ要ス定款ノ規定ニ拘ラス或株主カ任意ニ豫納セシカ如キハ豫納金ノ返付ヲ請求スルコトハ得ヘシト雖モ之ニ應シタル分配ヲ受クルコトヲ得ス又新株發行ノ場合ニ優先株ヲ發行スルコトアリ面シテ優先株ニ優先權トシテ殘餘財産ノ分配ノ割合ヲ多クスルコトヲ定メタルトキハ其割合ニ随テ分配ヲ爲スヘキコト論ヲ埃タス(第二二九條) 清算事務カ結了シタルトキハ清算人ハ遲滞ナク決算報告書ヲ作り之ヲ株主總會ニ提出シテ其承認ヲ求ムルコトヲ要ス株主總會ニ於テハ特ニ検査役ヲ選任シテ清算人ノ提出シタル決算報告書ヲ調査セシムルコトヲ得株主總會ハ決算報告書ヲ承認シタルトキハ之ヲ以テ清算人ノ責任ヲ解除シタルモノト看做ス尤モ清算人ニ不正ノ行爲アリタル場合ニ於テハ此限ニ在ラス第二三〇條) 總會召集ノ手續又ハ總會ノ決議方法法令又ハ定款ニ違反シタル場合ニ於テハ清算人ハ其決議ノ無効ノ宣告ヲ請求スヘシ(第二三一條) 會社カ解散セサル間

ハ第六十三條ノ規定ニ依リ總會召集ノ手續又ハ其決議ノ方法法令又ハ定款ニ反スルトキハ株主ハ其決議ノ無効ノ宣告ヲ請求スルコトヲ得ヘシ此規定ハ第二三十四條ニ依リ清算ノ場合ニモ準用アリ然レトモ株主カ此權利ヲ行フト否トハ全ク其任意ナルヲ以テ清算ノ場合ノ如キ會社カ將ニ全然消滅セントスル場合ニ在リテハ清算人ノ義務トシテ必ス無効宣告ヲ請求セシムルナリ) 會社ノ帳簿其營業ニ關スル信書及ヒ清算ニ關スル一切ノ書類ハ本店ノ所在地ニ於テ清算結了ノ登記ヲ爲シタル後十年間之ヲ保存スルコトヲ要ス其保存者ハ清算人其他ノ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所之ヲ選任ス(第二三三條) 會社カ解散シタルトキハ取締役ナル業務機關ハ消滅セテ清算機關之ニ代ル然レトモ會社ノ意思機關タル總會及ヒ監査役ハ清算事務ノ爲メニ依然存續スルナリ故ニ總會ノ召集ニ關スル規定第一五九條第一六〇條總會召集ノ手續又ハ其決議ノ方法カ定款又ハ法令ニ違反シタル場合ニ於ケル株主ノ無効宣告請求權ニ關スル規定第一六三條ノ準用アリ又監査役カ取締役ノ行爲ニ對スル權限ト同様ナル權限ヲ清算人ノ行爲ニ對シテモ與ヘサルヘカラス即チ第八十一

條第百八十三條乃至第百八十五條、第百八十七條ノ規定ヲ準用セリ又清算中ノ清算人ノ地位ハ恰モ平時ニ於テ取締役ノ地位ト等シキヲ以テ取締役ノ權限ニ關スル規定第百七十六條乃至第百七十八條ノ準用アルナリ(第二三四條株式會社ニハ解散ノ場合ニ非スシテ清算手續ヲ行フ場合アリ即チ會社カ事業ニ著手シタル後其設立ノ無効ナルコトヲ發見シタル場合はナリ會社ノ設立カ無効ナルヲ以テ會社ハ初ヨリ成立セザリシナリ然レトモ會社ハ已ニ事業ニ著手シタル後ナルヲ以テ其財產關係ノ始末ニ付テハ恰モ解散ノ場合ト同様ナルノミナラス又實ニ清算手續ニ依ラシメザレハ株主設立無効ナルヲ以テ株主ナル雖ハ或ハ妥當ナラス)及ヒ第三者ノ爲メ不利ナルヲ以テ解散ノ場合ニ準シテ清算ヲ爲スキコトヲ規定シ清算人ハ利害關係人ノ請求ニ因リ裁判所ヲシテ之ヲ選任セシム(第二三二條)

### 第五章 株式合資會社

株式合資會社ハ新商法ニ於テ始メテ規定セラレシモノニシテ我邦ニテハ未ダ

會ヲ實際ニ此種ノ會社組織アリシコトヲ聞カサルナリ歐洲ニ於テハ株式合資會社ハ十九世紀ニ至リテ始メテ行ハレタルカ如シキ人々組織ナルモノナリ株式合資會社ハ無限責任社員ト株主トヲ以テ組織セル會社ナリ即チ恰モ合資會社ノ無限責任社員ノ出資全部ヲ株式ニ分割セルモノナリ故ニ無限責任社員相互間ノ關係無限責任社員ト株主及ヒ第三者トノ關係無限責任社員ノ退社等ニ關シテハ全ク合資會社ニ關スル規定ヲ準用シ此他ノ事項ニ付テ大體株式會社ニ關スル規定ヲ準用シ唯本章ニハ株式合資ノ組織ニ特別ナル規定ノミヲ設ケタルナリ(第二三六條)

株式合資會社ハ合資組織ト株式組織トノ混合ナルヲ以テ會社ノ機關ノ如キモ全ク他ノ會社ト其趣ヲ異ニスルモノアリ無限責任社員ト株主トノ關係ニ付キ合資會社ノ規定ヲ準用セル結果會社ノ業務ヲ執行シ又ハ會社ヲ代表スル者ハ獨リ無限責任社員ナリ故ニ無限責任社員ニハ株式會社ノ取締役ニ關スル規定ノ準用アリ(第二四三條)又株式會社ニ關スル規定ノ準用ノ結果株主總會アリ隨テ合資會社ニ於テ他社員ノ同意ヲ要スヘキ事項ニ關シテハ株主總會ノ決議ノ

外無限責任社員ノ一致アルコトヲ要スルナリ第二四四條又會社ヲ解散シタルトキハ無限責任社員ト株主トハ各別ニ清算人ヲ選任スルナリ(第二四八條)株式合資會社ニ關スル規定中特ニ注意スヘキハ組織ヲ變更スル自由ヲ與ヘタル點ナリ總テ會社ハ其組織ヲ變更スルトキハ全ク別種ノ會社ト爲ルヲ以テ法律カ特ニ之ヲ認許スルニ非テレハ爲シ能ハサルモノト見サルヘカラス故ニ合名會社合資會社株式會社等ハ組織變更ノ權能ナキナリ然ルニ株式合資會社ニ付テハ商法第二百五十二條ニ於テ其組織ヲ變更シテ株式會社ト爲スコトヲ許セリ是レ株式合資會社ヲ株式會社ニ變更スルハ甚シク繁雜ナル手續ヲ執ルコトヲ要セサルヘキヲ以テ實際組織變更ノ必要ニ迫ラレタル場合ノ爲メニ之ヲ許スモ差支ナシト認メタルナラン

### 第六章 外國會社

法人ノ國籍ヲ定ムルニ種種ノ主義アリ或ハ依テ以テ法人ヲ組織セシ法令ノ屬スル國家ヲ以テ其本國ト爲ス主義アリ又法人ノ主タル事務所又ハ營業所ノ所

在國ヲ以テ本國ト爲ス主義アリ又或ハ其法人ヲ組織スル私人ノ所屬國ヲ以テ本國ト爲ス主義モアルヘシ我法例ニ於テハ明カニ之ヲ規定セズト雖モ普通ノ觀念ニ從ヒ依テ以テ法人ヲ組織セシ法令ノ所屬國ヲ以テ法人ノ本國ト看做スハ我國法ノ解釋トシテ穩當ナルヘシ

外國人ハ新條約實施ノ結果日本ニ於テ内國人或ハ外國人ト共ニ會社ヲ組織シテ商業ヲ營ムコトヲ得ヘシ然レトモ日本ニ於テ會社ヲ設立スルニハ日本商法ノ適用ヲ受テヘキコト論ヲ換テス故ニ將來ニ於テハ日本ニ本店ヲ有スル外國會社ノ設立セラレルコトナシ唯外國會社ノ支店又ハ代理店ヲ設置スル場合ヲルヘシ支店ヲ設置スルトキハ日本ニ成立スル同種ノ會社又ハ最モ之ニ類似スル會社ト同一ノ登記又ハ公告ヲ爲スコトヲ要ス又日本ニ於テ會社ノ營業ニ關スル一切ノ裁判上又ハ裁判外ヲ行爲ヲ爲ス權限ヲ有スル代表者ヲ定メ其氏名住所ヲ登記スヘシ(第二五五條)又舊條約ノ下ニ於テ外國法ニ從ヒ各居留地ニ於テ本店ヲ設置シタル外國會社ナキニ非ス此等ノ會社及ヒ日本ニ本店ヲ有セサルモ日本ニ於テ商業ヲ營ムヲ

以テ主タル目的トスル會社ハ日本ニ於テ設立スル會社ト同一ノ規定ニ從ハレ  
 (第二五八條) 外國人ニ於テ設立シタル外國會社及ヒ商法施行法第九十二條ハ日本ニ支店ヲ設ケタル外國會社及ヒ商法施行前ニ外國人カ日本ニ於テ設立シタル會社ニ付キ勅令ヲ以テ特別ノ規定ヲ設ケルコトヲ得ヘキコトヲ規定シ亦保險業法第一百五條ニ於テ更ニ外國保險會社カ日本ニ支店又ハ代理店ヲ設ケラ營業ヲ爲ス場合ニ付キ同條ノ規定アリ此等ノ規定ニ基キ明治三十二年勅令第二百七十二號及ヒ明治三十三年勅令第三百八十號ノ發布アリテ外國會社ニ關シ更ニ詳細ニ規定スル所アリ參照スヘシ

**第七章 罰 則**

會社ノ發起人清算人取締役監査役會社ノ業務ヲ執行スル社員又ハ外國會社ノ日本ニ於ケル代表者カ第二百六十一條又ハ第二百六十二條ニ列記セル行爲ヲ爲シタルトキハ五百圓以上五百圓以下又ハ十圓以上千圓以下ノ過料ニ處セラレ

過料處分ノ手續ハ非違事件手續法ノ規定ニ依ル

# 商法會社

商法會社 終

商法會社 罰則

商法會社

商法會社 第一卷 第一號 發行所 東京市本町三丁目一丁目 電話 二二二二  
編輯者 商法會社編輯部 印刷者 東京市本町三丁目一丁目 印刷所 印刷部  
發行所 東京市本町三丁目一丁目 電話 二二二二  
第一號 第一卷 第一號 發行所 東京市本町三丁目一丁目 電話 二二二二  
第二號 第一卷 第二號 發行所 東京市本町三丁目一丁目 電話 二二二二  
第三號 第一卷 第三號 發行所 東京市本町三丁目一丁目 電話 二二二二  
第四號 第一卷 第四號 發行所 東京市本町三丁目一丁目 電話 二二二二  
第五號 第一卷 第五號 發行所 東京市本町三丁目一丁目 電話 二二二二  
第六號 第一卷 第六號 發行所 東京市本町三丁目一丁目 電話 二二二二  
第七號 第一卷 第七號 發行所 東京市本町三丁目一丁目 電話 二二二二  
第八號 第一卷 第八號 發行所 東京市本町三丁目一丁目 電話 二二二二  
第九號 第一卷 第九號 發行所 東京市本町三丁目一丁目 電話 二二二二  
第十號 第一卷 第十號 發行所 東京市本町三丁目一丁目 電話 二二二二

商法會社目次

三十三年度講義錄

法學士 杉本貞治 耶 講述

商法會社

和佛法律學校發行

商法會社

商法會社

三十三

商法會社目次

第一章 總則 ..... 一

第二章 合名會社 ..... 八

    第一節 設立 ..... 一

    第二節 會社ノ内部ノ關係 ..... 一八

    第三節 會社ノ外部ノ關係 ..... 二六

    第四節 退社 ..... 三三

    第五節 解散 ..... 四〇

    第六節 清算 ..... 四六

第三章 合資會社 ..... 五八

第四章 株式會社 ..... 六三

    第一節 會社ノ設立 ..... 六七

    第二節 株式 ..... 八一

商法會社目次



- 第三節 普通株式機關 ..... 八九
- 第四節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第四節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第五節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第六節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第七節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第八節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第九節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第十節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第十一節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第十二節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第十三節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第十四節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第十五節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第十六節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第十七節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第十八節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第十九節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第二十節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第二十一節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第二十二節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第二十三節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第二十四節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第二十五節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第二十六節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第二十七節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第二十八節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第二十九節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第三十節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第三十一節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第三十二節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第三十三節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第三十四節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第三十五節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第三十六節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第三十七節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第三十八節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第三十九節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第四十節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第四十一節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第四十二節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第四十三節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第四十四節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第四十五節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第四十六節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第四十七節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第四十八節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第四十九節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第五十節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第五十一節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第五十二節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第五十三節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第五十四節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第五十五節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第五十六節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第五十七節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第五十八節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第五十九節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第六十節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第六十一節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第六十二節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第六十三節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第六十四節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第六十五節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第六十六節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第六十七節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第六十八節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第六十九節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第七十節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第七十一節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第七十二節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第七十三節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第七十四節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第七十五節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第七十六節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第七十七節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第七十八節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第七十九節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第八十節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第八十一節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第八十二節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第八十三節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第八十四節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第八十五節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第八十六節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第八十七節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第八十八節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第八十九節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第九十節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第九十一節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第九十二節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第九十三節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第九十四節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第九十五節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第九十六節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第九十七節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第九十八節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第九十九節 株式會社主權會 ..... 九〇
- 第一百節 株式會社主權會 ..... 九〇

商法會社目次終

若シ此條件ノ一ヲ缺カンカ其法律行為ハ直接ニ本人ニ對シテ效力ヲ生スルコトナシ換言スレバ代理關係ハ發生セサルモノナリ代理人ハ其法律行為ヲ爲スニ當リテ常ニ本人ノ爲メニ爲スコトヲ表示スルヲ要スト雖モ必ス其意思ヲ明示スルヲ要セス默示ノ方法ニ依リテ之ヲ表示スルモ可ナリ代理人カ法律行為ヲ爲スニ當リ若シ前述第二ノ條件ヲ缺キタルトキハ民法第百條ノ規定ニ依リ其行為ハ單ニ代理人ニ對シテ效力ヲ生スヘキノヨ本人ハ此等ノ行為ニ因リ何等ノ權利ヲ得又ハ義務ヲ負フヘキモノニ非サルナリ

以上ハ民法上代理ニ關スル規定ナリ商業上ノ法律行為ニ於テハ時時取引上ノ秘密ノ爲メニ本人ノ爲メニスルコトヲ隱匿スルノ必要アリ此場合ニ於テ商法ハ其法律行為ニシテ本人ニ對シテ有效ナラシムヘキヤ否ヤノ疑問ヲ生ス左ニ其場合ヲ區別シテ之ヲ論ゼン

第一 代理人ハ本人ノ氏名ヲ明示セスト雖モ自己ノ爲メニ法律行為ヲ行フニ非ナルコトヲ表示シタルトキ



予カ民法第九十九條ヲ解スル所ニ據レハ代理人ハ其法律行為ヲ爲スニ當リ  
 於テ必スモ本人ノ氏名ヲ明示スルヲ要セス單ニ其他人ヲ爲メニ爲スコトヲ  
 表示セハ足レリ且ツ特ニ商法ニ於テ正當ナル理由ナクシテハ民法ノ除外例ヲ  
 設クヘキモノニ非ス而シテ予ハ其正當ナル理由ヲ發見スル能ハサルヲ以テ  
 此ノ如キ場合ニ對シテハ仍ホ民法ノ規定ヲ適用スルヲ至當ナリト信ス  
 第二 本人ノ爲メニスルコトヲ表示セスシテ代理人カ法律行為ヲ行ヒタルト  
 キ

民法第百條ノ規定ニ依レハ此場合ニ於テ代理人ヲ爲シタル法律行為ハ唯代  
 理人ニ對シテ效力アルノミ蓋シ純理ヨリ之ヲ論スルトキハ代理人ハ自己ノ  
 爲メニスル意思ヲ有セスシテ尙ホ他人ノ爲メニスルコトヲ表示セサルヲ以テ  
 意思ト其表示ハ相一致セス隨テ其法律行為ハ無効ニシテ相手方ハ單ニ代理  
 人ニ對シテ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ルノミ然レトモ抑モ損害賠償ナルモ  
 該ノ相手方ヲ保護スヘキ完全ナル救済方法ニ非サルヲ以テ純理ニ拘ラス實  
 際ノ必要ニ基キ本人ノ爲メニスルコトヲ表示セスシテ爲シタル行為ハ自己

ノ爲メニスルコトヲ看做シ代理人ハ之ヲ拘束スルコトトセリ  
 商業上ニ於テハ取引ノ迅速取引ノ安全ヲ保護スルコト爲キテ要ス故ヲ以テ近  
 世各國ニ於テ商法ヲ編纂スルニ當リテハ理論ヲ骨子トシ實際ノ便益ヲ參酌  
 シテ之カ規定ヲ設ク我國商法ノ編纂ニ於テモ亦此主義ヲ採用シ民法ニ於テ  
 ハ理論ヲ基礎トシ公平ヲ規矩トシ稀ニ實益ヲ參酌セリト雖モ商法ニ於テハ  
 寧ロ實益ヲ以テ主トシ理論ヲ以テ從トセリ代理人カ本人ノ爲メニスルコト  
 ヲ示サスシテ法律行為ヲ行ヒタルトキハ民法ニ於テハ公平ノ觀念ニ基キ單  
 ニ自己ノ爲メニスルコトヲ看做スノミ然レトモ商業上ノ取引ハ便利且  
 ツ迅速ナラシムルコトヲ要スルヲ以テ一ノ商行為ヲ爲スニ當リテ常ニ其本  
 人ノ爲メニスルコトヲ表示スルニ非サレハ其行為ハ本人ニ對シテ何等ノ效力  
 ヲモ生セスト規定スルトキハ不便極リナク加之商業上ノ取引ニ於テハ屢  
 名ヲ以テ取引ヲ爲スノ必要アルヲ以テ商法ハ第二百六十六條ヲ以テ民法第  
 九十九條及ヒ第百條ノ例外ヲ設ケタリ  
 上通ヘタリ所ハ單ニ本人ト代理人トノ關係ニ過キス更ニ代理人ト相手方ト

ノ關係ニ付キ特ニ注意ヲ要スヘキモノアリ前述ノ如ク代理人カ本人ノ爲メニ  
 スルコトヲ表示セラルトキニ於テモ其法律行為ハ本人ニ對シ直接ニ效力ヲ生  
 スルカ故ニ本人ハ之ニ因リテ權利ヲ得義務ヲ負擔スト雖モ代理人ハ何等ノ義  
 務ヲ負擔セザルモノナリ相手方ハ其取引ヲ爲スニ當リテハ代理人自身ト取引  
 ヲ爲スノ意思ヲ有シ代理人自身ヲ信任シ若クハ其資産ヲ信據スルヲ常トス然  
 ルニ其行為ハ代理權ノ作用トシテ直接ニ本人ニ對シテノミ效力ヲ生シ代理人  
 ハ相手方ニ對シテ何等ノ責任ヲ負擔セストセハ相手方ノ不利益ハ特ニ甚シカ  
 ルヘク相手方ハ心ヲ安シテ他人ト取引スルコトヲ得タルニ至ラシ是レ商法  
 上基礎ノ觀念タル取引ノ安全ヲ阻害スルモノナルヲ以テ相手方保護ノ主旨ニ  
 基キ商法第二百六十六條ハ但書ニ於テ本人ノ爲メニスルコトヲ知ラサル相手  
 方ニ對シテ代理人ニ對シテ履行ヲ請求スルノ權利ヲ與ヘタリ

(第二) 例外ノ第二ハ委任ニ因ル代理權ノ範圍ニ關スルモノナリ民法第六百四  
 十四條ノ規定ヲ見ルニ受任者ハ委任ノ本旨ニ從ヒ善良ナル管理人ノ注意ヲ以  
 テ委任事務ヲ處理スヘキモノナリ委任ノ本旨トハ何ソヤ委任者カ明示若クハ

默示ニ委任シタル行為ノ範圍是ナリ受任者ハ明示又ハ默示ニ因リ指定セラレ  
 タル行為ノ外ハ之ヲ行フノ權限ヲ有セス然レトモ受任者ノ權限ヲ限定スルハ  
 商業上不便尠カラサルヲ以テ商法ニ於テハ特ニ反對ノ意思表示ナキ限ハ成ル  
 ヘタ代理權ノ範圍ヲ擴張セシムルコトヲ必要トス故ニ商法第二百六十七條ニ  
 於テハ民法除外例ヲ設ケテ明示又ハ默示ノ方法ニ依リ指定シタル委任ノ本旨  
 ニ反セザル範圍内ニ於テ爲シタル代理人ノ行為ハ代理行為トシテ本人ニ對シ  
 效力アルコトヲ規定セリ

(第三) 例外ノ第三ハ代理權ノ消滅ニ關スルモノナリ民法第百十一條ニ依レバ  
 代理權ハ本人ノ死亡ニ因リテ消滅スルモノナリ委任ニ因ル代理ハ當事者間ニ  
 於ケル一身上ノ信用ニ基クモノナルカ故ニ羅馬法以來諸國ノ立法ハ多ク本人  
 ノ死亡ニ因リテ代理權ハ消滅スルモノトモリ然レトモ社會ノ發達ニ伴ヒ人事  
 ノ關係複雑ト爲ルニ從ヒ此ノ如キ制度ハ不便極リナキヲ以テ近來ニ於テハ本  
 人ノ死亡ヲ以テ代理權消滅ノ一原因ト認メサルノ傾向ヲ生セリ特ニ商事ニ於  
 テ委任者ノ死亡ヲ以テ代理權ノ消滅ノ原因ト爲ストキハ當事者ニ尠カラサル

不便ヲ來スノミナラス商業ヲ迅速ヲ妨害スルノ虞アルヲ以テ我商法ハ從來ノ沿革ニ拘ラズ獨逸ノ例ニ倣ヒ商法第二百六十八條ニ於テ民法ノ例外ヲ掲ケ委任者ノ死亡ハ代理權消滅ノ原因ニ非タルコトヲ明カニセリ

### 第六節 契約

本節ニ於テ述ヘントスル所ハ商法第二百六十九條乃至第二百七十二條ノ規定ニシテ民法第三編第二章ノ例外規定ナリ契約ニ關スル本法ノ規定ニシテ民法ノ規定ト異ナル所ハ唯僅ニ左ノ三ノ場合アルノミ

- 第一 契約ノ申込ノ效力ニ關スル規定
  - 第二 承諾ノ推定ニ關スル規定
  - 第三 物品ノ保管ニ關スル規定
  - 第一 契約申込ノ效力ニ關スル規定
  - 第二 承諾ノ推定ニ關スル規定
  - 第三 物品ノ保管ニ關スル規定
- 第一 契約申込ノ效力ニ付テハ民法第五百二十一條以下ノ規定スル所ナリ民法第五百二十一條及ヒ第五百二十七條ノ規定ニ依レハ申込ニ二種アリテ各其效力ヲ

異ニセリ

〔甲〕承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込  
承諾ノ期間ヲ定メテ爲シタル契約ノ申込ハ其期間内ハ之ヲ取消スコトヲ得ス  
ト雖モ若シ承諾ノ通知ナクシテ其期間ヲ經過シタルトキハ申込ハ其效力ヲ失フモノトス

〔乙〕承諾ノ期間ヲ定メスシテ爲シタル契約ノ申込  
承諾ノ期間ヲ定メスシテ爲シタル契約ノ申込ハ申込者ノ取消又ハ相手方ノ拒絶アルニ非スシハ單ニ一定ノ期間ノ經過ニ因リ其效力ヲ失フモノニ非ス加之  
對話者間ニ於テハ申込者ハ相手方カ承諾スル以前ハ何時ニテモ其申込ヲ取消  
スコトヲ得ルト雖モ隔地者間ニ於テハ申込者ハ申込者カ承諾ノ通知ヲ受クル  
ニ相當ナル期間内ハ之ヲ取消スコトヲ得タルモノトス  
商法第二百六十九條及ヒ第二百七十條ノ規定ハ第二ノ場合即チ承諾ノ期間ヲ  
定メスシテ爲シタル契約ノ申込ニ關スル民法ノ規定ノ例外ヲ設ケタルモノニ  
シテ承諾ノ期間ヲ定メテ契約ノ申込ヲ爲セタル場合若クハ商法ノ規定ト異ナ

ル慣習アリテ當事者ハ之ニ依ル意思ヲ有スル場合ニ於テハ其適用トキコトヲ  
忘ルヘカラス  
抑モ商業上ノ契約ニ於テハ其目的ハ主トシテ營利ニ在ルヲ以テ取引ヲシテ迅  
速且テ確實オラシムルコトヲ要スルモノタリ承諾ノ期間ヲ定メスシテ申込ヲ  
爲シタル場合ニ於テ全然民法ノ規定ヲ適用スルコトトセンカ取引ノ敏活ヲ妨  
害スル恐アリ故ニ民法ノ例外ヲ設ク

第一 對話者間ニ於ケル申込ニ付テハ相手方カ直チニ承諾ヲ爲ササルトキ  
當然ハ當然其效力ヲ失フモノトシ(第二六九條)

第二 隔地者間ニ於ケル申込ニ付テハ相手方カ相當ノ期間内ニ承諾ノ通知  
ヲ發セサルトキハ其效力ヲ失フモノトセリ(第二七〇條)

對話者間ニ於ケル申込ニ關スル規定ニ付テハ別ニ説明ヲ要セスト雖モ隔地者  
間ニ於ケル申込ニ關シ一言ヲ要スヘキコトアリ民法ノ規定ニ依レハ承諾ノ期  
間ヲ定メスニテ爲シタル隔地者ニ對スル申込ハ申込者カ承諾ヲ受タルニ相當  
ナル期間ヲ經過シタル後ハ之ヲ取消スコトヲ得ヘシト雖モ申込者カ之ヲ取消

ササル限ハ申込トシテ猶ホ有效ニ成立ス加之民法第五百二十七條ノ規定ニ依  
レハ申込者ノ發シタル取消ノ通知カ其相手方ニ到達スル以前ニ於テ相手方カ  
承諾ノ通知ヲ發シタルトキハ契約ハ完全ニ成立シ取消ノ通知ハ何等ノ效力ヲ  
生スルコトナシ此ノ如ク申込ハ之ヲ取消ササル間ハ猶ホ效力ヲ有シ之カ效力  
ヲ失ハシムルニハ取消ノ手續ヲ要ストモ商業上ノ不便尠カラサルヲ以テ商  
法ニ於テ特ニ之カ例外ヲ設クタリ

第二 承諾ノ推定ニ關スル規定

抑モ契約ハ二人以上ノ間ニ於ケル意思表示ノ合致ナリ申込ニ對スル承諾ナル  
意思表示アリタル時ニ於テ完全ニ成立スルヲ原則トシ承諾ナクシテ契約ハ成  
立スルモノニ非サルナリ民法ノ規定ニ依レハ縱令申込者カ其申込ニ相手方カ  
拒絕ノ意思ヲ表示セサレハ之ヲ承諾シタルモノトスヘキコトヲ附記シタリト  
雖モ申込ヲ受ケタル者カ其申込ニ對スル諾否ヲ通知セサル場合ニ於テ單ニ通  
知ナキノ故ヲ以テ承諾ヲ爲シタルモノト看做スコトヲ得ス是レ民法ニ於テ別  
ニ明文ナシト雖モ法理上明瞭ナル事ナリ契約カ意思表示ノ合致ナルヲ以テ承

諾ナル意思表示ナキ場合ニ於テハ特ニ法律ノ推定アルニ非スシハ契約ハ成立スルモノニ非ス承諾ノ表示ナクシテ契約ノ成立スヘキ場合ハ唯民法第五百二十六條第二項ノ場合アルノミ

以上ハ民法上ノ原則ナリ然レトモ商人カ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ民法ノ規定ヲ適用スルコトトセシカ取引ノ慣習上又ハ申込者ノ意思表示ニ因リテ承諾ノ通知ヲ必要トセサル場合ニ於テ承諾ノ意思表示ト認ムヘキ事實アルニ非スシハ契約ハ成立セサルヲ以テ其不便宜ニ涉カラス是ヲ以テ商法ニ於テハ民法ノ除外例ヲ設ケ商人ハ平常取引ヲ爲ス者ヨリ其營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込ヲ受ケタルトキハ遲滯ナク諾否ノ通知ヲ發スヘキノ義務アルモノトシ若シ義務ヲ怠リタルトキハ制裁トシテ申込ヲ承諾シタルモノト看做スコトトセリ(第二七一條故ニ商法第二百七十一條ニ依リ承諾ノ推定ヲ受タヘキ場合ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

- 一 申込者ハ平常取引ヲ爲ス者タルコト
- 二 商人カ營業ノ部類ニ屬スル契約ノ申込アリタルコト

三 申込ニ對シ遲滯ナク諾否ノ通知ヲ發セザリシコト

抑モ商法ノ規定タルヤ之ヲ純理上ヨリ論スルトキハ其當ヲ得タルモノニ非ス契約ハ當事者ノ意思ノ合致ナリ意思ノ合致ナクシハ契約ナシ商法第二百七十一條ハ申込ヲ受ケタル者ノ意思ニ反シテ契約ヲ成立セシムルモノニシテ理論上契約ト稱スルコトヲ得ス然レトモ之ヲ實際ニ徵スルニ商法上ノ取引ニ於テ商人カ平常ノ取引先ヨリ其營業ニ關シ契約ノ申込ヲ受ケタル場合ニ於テ商人ハ必ス申込ニ對シテ諾否ヲ回答スヘキ義務アルモノトシ若シ此等ノ義務ヲ怠リタルトキハ損害賠償ニ代ヘ契約ハ完全ニ成立シタルモノト看做スハ不當ナラサルノミナラス毫モ弊害ヲ生スルコトナク且ツ取引先ニ對スル商人ノ信用ヲシテ確固ナラシメ取引ヲシテ迅速ナラシムル等種種ノ利益ノ伴フアルヲ以テ理論ノ如何ニ拘ラス實際ノ便利ヲ計リ此ノ如キ推定ヲ設ケタルナリ

第三 物品ノ保管ニ關スル規定

近來商業發達シ取引ノ頻繁ト爲ルニ隨ヒ商業上ノ機敏ヲ尙ヒ商業取引ハ一ニ信用ヲ基礎トシ之ヲ重スルニ至レリ今日ノ實際ニ於テ商人ハ商取引ヲシテ迅

速ナラシメシカ爲メニ契約ノ申込ト同時ニ相手方ヲ信任シテ商品ヲ送付スル  
 コト多シ此場合ニ於テ相手方若シ其申込ヲ拒絶シタリトモシカ民法ノ規定ニ  
 依レハ相手方ハ其商品ヲ留置スルノ權利ヲ有セス又其物品ヲ保護シ若クハ送  
 還スルノ義務ヲ負擔スルコトナシ果シテ此ノ如クシハ商業ノ迅速及ヒ商業上  
 ニ於ケル信用關係ノ發達ハ得テ望ムヘカラス加之物品ヲシテ無益ニ荒廢セシ  
 ムルハ公益上有害ニシテ且ツ今日ノ實際ニ於テモ其商品ヲ保管セシムルノ慣  
 例多キヲ以テ商法ニ於テハ民法ノ規定ニ拘ラス商人カ其營業ノ部類ニ屬スル  
 契約ノ申込ヲ受ケ且ツ此申込ト共ニ物品ヲ受取リタルトモハ縱令其申込ヲ拒  
 絶シタルトモキト雖モ其物品ヲ保護スヘキ旨ヲ規定セリ(第二七二條)

物品保管ノ義務ニ相牽連シテ生スヘキ問題アリ物品保管ノ費用ハ何人カ之ヲ  
 負擔スヘキヤ契約ノ申込者之ヲ負擔スヘキカ或ハ其相手方ニ於テ負擔スヘキ  
 カノ問題はナリ元來物品ヲ受取リタル者ニ對シ其物品ヲ保管スヘキ義務ヲ負  
 擔セシメタルハ商業ノ迅速及ヒ信用ヲ尙フノ理由ニ基クモノナリト雖モ物品  
 ニテ受取リタル者ヲシテ保管ノ費用ヲ負擔セシムヘキ理由ナキノミナラス物品

ハ固ヨリ他ノ保險業務トモ兼行セラルヘカラナルモノナリ換夫利加奈太那威  
 等ノ最近立法例皆然リ但シ疾病負傷老衰等ノ保險ハ狭義ノ生命保險ニ非ナル  
 モ人類身體上ノ災厄ヲ目的トシ且ツ屢長キ期間ニ亘リテ契約セラルルコト  
 生命保險ト酷肖シ之ヲ併業セシムルモ正義ニ反スルコト無シトノ理由ヲ以テ  
 生命保險ト兼業スルコトヲ許サレタリ我保險業法ニ於テモ亦此主義ヲ採用セ  
 リ

前例ニ依レハ生命保險以外ノ保險ハ何種ニテモ之ヲ兼業スルコトヲ得ヘキナ  
 レトモ加奈太ハ之ニモ亦制限ヲ設ケ或種ノ保險ハ三種以上ヲ兼業スルコトヲ  
 得ス或種ハ二種以下ニ限ルト云フカ如ク其範圍ヲ狭メタリ  
 英國ニ在リテハ以上ノ如キ嚴重ナル分割ヲ要求セス數種ノ保險又ハ生命保險  
 ト他種ノ保險ヲ兼業スルコトヲ許スト雖モ此場合ニハ各種ノ保險ニ就テ各別  
 ノ會計ヲ立テ其準備金ノ流用ヲ許サス各種保險ノ被保險者ハ之ニ對シテ各別  
 ニ優先權ヲ有シ事業報告統計ノ如キモ皆各別ニ之ヲ作ルヘシト定メタリ我舊  
 商法ハ此主義ヲ採用シタリシナリ此主義ハ頗ル穩和ナル方法ナリト雖モ此ノ



如キ不十分ナル分割ハ畢竟分割ノ效ヲ奏セザルカ故ニ子ハ之ヲ贊成セズ  
 第四 資本金ノ制限 保險會社ノ資本金ハ其ノ資本額ノ百分之五十ニ限ル  
 保險業ハ保險料ヲ集メテ之ヲ支拂フモノナルカ故ニ別ニ資本金ヲ要セズト曰  
 フ人アレトモ探ルニ足ラス凡ソ事業ニ著手スルニ當リテ基金ヲ要セザルコト  
 何レニ在リヤ且ツ保險料ハ元來多年ノ平均ヲ以テ定メタルモノナルカ故ニ數  
 年ヲ通算スレハ集メタル保險料ヲ以テ保險金其他ノ支拂ニ充テテ過不及ナカ  
 ルヘシト雖モ年ニ吉凶ノ別アリ其年ノ保險料收入ヲ以テ保險金其他ノ支拂ヲ  
 償フコト能ハサル場合少シトセス此等ノ爲メニ資本金ヲ要スルハ無論ノコト  
 ニシテ尙ホ貯蓄銀行ニモ業務ノ安全ヲ保證セシメン爲メニ資本金ヲ設備スルノ  
 要アルカ如シ既ニ資本金設備ノ必要アリトスレハ其最低限度ノ制限ナルカ  
 ラス而シテ這ハ保險ノ種類ニ由リテ其限度ヲ異ニセザルヘカラス例ヘハ生命  
 保險ノ如キ學理發達シ各箇保險契約金額比較的ニ小額ナルモノハ非常ニ多額  
 ノ資本金ヲ要セズト雖モ火災保險ノ如キ海上保險ノ如キ若クハ農業保險ノ如  
 キハ投機的事業タルノ性質多ク且ツ一舉ニ大損害ヲ被ルコトアルモノナ

ルカ故ニ比較的大資本ヲ以テ著手スル必要アルカ如シ而シテ保險會社ノ資本  
 ハ常ニ之ヲ流用セテ事業ヲ進行セシムル性質ノモノニ非ス寧ロ危險準備ノ爲  
 メニスルモノナルカ故ニ株式會社ノ如キ營利的ニシテ有限責任ナルモノニ對  
 シテ最モ重キヲ置カサルヘカラス相互保險組織ニ於テハ會社カ損失ヲ被リ現  
 在財産ヲ以テ之ニ應スルヲ得サル場合ニハ各組合員ヨリ之ヲ贖出セシムル權  
 利ヲ留保スルカ故ニ會社カ其業務ヲ開始シテヨリ數年ヲ經テ多クノ被保險者  
 及ヒ多クノ準備金ヲ有スルニ至ラハ必スシモ資本金ヲ設備セザルヘカラス  
 ニ非ス故ニ相互保險會社ニ付テハ時ニ例外アリト知ルヘシ  
 最低資本金額ヲ制限スルノ立法ハ北米合衆國加奈夫奧太利等ニ在リ而シテ此  
 資本金ニハ悉皆之ヲ拂込ムコトヲ必要トスル米國主義ト一部拂込ヲ許スノ英  
 國主義トアリ後者ハ責任ノ餘力ヲ保有セシムルノ利アリト稱セラルルト雖モ  
 實際ニ於テ殆ト效能ナキカ故ニ甚シキ一部拂込ハ當ヲ得ス左レハトテ金額拂  
 込モ亦餘裕ヲ缺クノ觀ナキニ非ザルカ故ニ折衷シテ多額拂込ヲ適當ナリト思  
 惟ス

第五 保證金ヲ官ニ納付スルコト

既ニ業務ノ安全ヲ擔保セシムル爲メ相當ナル資本金ヲ設備セザルモ保險會社ノ官ニ納メシムルノ嚴重ナル規定ハ英、米、澳等ノ保險會社法ニ見ル所ナリ是レ實本金ハ會社ノ自由ニ運轉スル所ノモノナレハ被保險者ニ對スル十分ノ擔保ト爲ルヲ得ストノ見解ヨリ來レルナルヘシ然レトモ予ハ寧ロ此規定ノ煩ヲ避ケテ資本金ノ拂込ヲ多額ナラシメ其一部ヲ官ニ供託シ擔保ノ實力ヲ證スルニ止メシムルヲ以テ良策ナリト考フ

第六 存立時期ヲ永久ニスルコト 保險會社ノ損益計ルヘカラサルモノト看做サレシモ學理ノ發達ト共ニ既往ノ事實ニ統計ニ據リ將來ノ狀況ヲ推測シ信憑スヘキ成算ヲ以テ行フコトヲ得ル稍著實ナル業務ト爲レリ然レトモ一年若クハ數年ノ如キ確定シタル期間ニ付テ云ヘハ尙ホ投機の性質ヲ脱スルコト能ハス故ニ會社ノ存立時期ヲ永久不定ニシテ統計ノ豫想ヲ現實ナラシメサルヘカラス況ヤ保險事業ハ簡人ト簡人ノ取引ニ止マラス社會ニ於ケル無數ノ人ヲ對手トスルモ

ノナルカ故ニ其存廢カ社會ノ經濟人民ノ福利ニ關係ヲ有スルコト頗ル多キニ於テヤヤ登之ヲ保險營業者ノ自由ニ放任シ晨興暮廢セシメテ可ナラシヤ而シテ存立時期ヲ永久ナラシムルコト云フト雖モ實際會社ノ存立シ得ヘカラサル場合ニモ之カ廢業ヲ許可セスト云フニ在ラス豫ノ規定シタル存立時期ヲ許サス道理アル事情ノ存在セル場合ニ於テノミ官許ニ由リテ之カ廢業解散ヲ行フコトトスルモノニシテ此規定ハ設立ノ官許ヲ要スルコトヲ規定セル各國ノ法律ニ之ヲ定メタリ但シ加奈太ハ設立ニ付テ免許ノ期限ヲ定メ十五年若クハ二十年ニ再ヒ免許ヲ請ハシムルコトセルカ故ニ或ハ法律ヲ以テ存立時期ヲ定限セルヤノ觀ナキニ非スト雖モ立法ノ精神ハ蓋シ此ニ在ラス會社ノ組織狀況等ニ付キ缺點アルモノヲ常ニ排斥セントスル意思ヲ表シタルモノナリ

第七 營業原則ノ確定ヲ要スルコト

營業原則トハ所謂保險ヲ學理的基礎トシテ利益ノ計算業務ノ執行會社ノ存立總テ之ニ基ケリ死亡生存表火災統計海難統計其他保險ノ種類ニ隨ヒ必要ナル危險率諸表豫定利率純保險料附加保險料責任準備金危險準備金並ニ其他ノ準備



金ノ算出方法等即チ是ナリ此等ノ諸項整備セザルモノハ眞ノ危險事業ニ非ザルコトハ曩ニ詳述セルカ如シ社會カ邁ク進歩シ人類カ等シク實明ナリモハ保險事業ノ實行ニ當リテ當然確定執行セラルヘキ所ノモノナリト雖モ社會ハ決シテ此ノ如キ圓滿ノモノニ非ス故ニ法律ヲ以テ之ヲ規定強制シ生命保險ニ對シテ特ニ嚴密ニスルノ必要アリ各國大體皆之ニ關スル法律ヲ有スル中ニ就キ北米合衆國ニ在リテハ法定ノ死亡生殘表豫定利率ノ制限等ヲ設ケタリ英國ハ別ニ之ヲ規定セスト雖モ會社ニハ必ズ保險學士ヲ使用セザルヘカラサル規定ヲ設ケ之ニ由リテ間接ニ確守ヲ要求セリ我保險業法ニモ詳細ニ之ヲ規定セリ以上七箇ノ事項ヲ以テ保險會社設立ニ關スル規定ノ重要ナルモノトス

### 第五節 保險業務執行ニ關スル規定

第一 保險準備金ヲ設備セシムルコト  
 不慮ノ損耗ニ備フル爲メ利益ノ幾分ヲ割キテ準備金ヲ積立ツルコトハ總テノ事業ニ必要ニシテ法律モ亦之ヲ總テノ事業ニ強制セリ然レドモ就中保險事業

ハ其性質上特種ナル準備金ノ設備ヲ缺クヘカラズ之ヲ添ルルトキハ會社ノ生存ニ危殆ヲ及ホスモ至ルモノナリ故ニ之ヲ保險準備金ト稱シテ特ニ其設備ヲ保險會社ニ嚴命セザルヘカラズ  
 保險準備金ニ數種アリ今其主要ナルモノヲ舉クレハ左ノ如シ  
 (甲) 危險準備金  
 保險事業ハ平均法ヲ基礎トセリ即チ其收納スル所ノ保險料ノ若干年間ノ平均危險ヲ基トシテ定メタルナリ然ルニ年年發生スル所ノ危險ハ必スシモ平均危險ノ程度ト一致スルモノニ非ス之ヲ換言スレハ保險金ノ年年支拂額ハ必スシモ豫定保險金額ト一致スルモノニ非スシテ或ハ少キ或ハ多キモトモアリ少キトキニ生シタル剩餘金ヲ悉ク利益トシテ配當シ去ラハ一旦巨大ナル損害ノ發生ニ遭ヒテ多額ノ保險金ヲ支拂ハサルヘカラサル場合ニ如何センヤ縱令會社カ巨額ノ資本金ヲ備ヘタルカ故ニ之ニ應スルコトヲ得タリトスルモ爲メニ財政ノ鞏固ヲ缺キ社運ノ盛衰變化極マリナクシテ遂ニ信用ヲ失スルニ至ルヘシ況ヤ業務ノ膨脹責任ノ増加ニ伴ヒテ不慮ノ損害額非常ニ多ク資本金

ヲ盡クシテ尙ホ之ヲ償フコト能ハサル場合ナキヲ保スヘカラサルヲヤ故ニ保險會社ハ平生ノ剩餘金ヲ其營業ノ原則ニ從ヒ危險準備金トシテ積立テ以テ他ノ凶年ニ備ヘサルヘカラサルナリ故ニ法律ヲ以テ之ヲ強制スルノ必要頗ル明カナルニモ拘ラス世界各國ノ保險會社法未ダ之ヲ規定セス奇ナリト謂フヘシ總令歐米ノ保險事業ハ進歩セルカ故ニ之ヲ營業者ニ一任シテ可ナリトスルモ少クトモ現時我日本ニ於ケル保險會社ニハ之ヲ強制スルノ必要頗ル大ナリトス

(乙) 責任準備金

責任準備金トハ會社ノ財産ニ非シテ義務即チ負債タル金額ヲ準備金トシテ設備スルノ謂ニシテ之ヲ未經過保險料及ヒ保險責任金ノ二種トス次ニ其性質ヲ説明セン

未經過保險料トハ未ダ經過セタル將來ノ期間ニ對スル保險料ニシテ會社ノ決算ニ租入ルヘカラサルモノナリ例ヘハ五月一日ニ保險契約ヲ締結シ一箇年分ノ保險料ヲ拂込ミタルモノアリ而シテ會社ノ決算期ハ十二月三十一日ナリト

止マリ船舶所有者ハ之カ責任ヲ負フハキモノニ非ス然レモ船長其他ノ船員カ其職務トシテ當然爲スヘキ行爲ヲ怠リ若クハ其職務ヲ執行不十分ナルカ爲メニ他ニ損害ヲ生シタルトキハ船舶所有者ハ之カ責任ヲ負ハサルヘカラス例ヘハ荷物ノ積積ヲ契約ノ期間内ニ爲サス又ハ船積ノ際取扱ノ粗漏ナルヨリ荷物ヲ毀損シ若クハ海中ニ落シ荷主ニ損害ヲ生シタルカ如キ場合はナリ以上叙述シタル場合ニ於テ船舶所有者ハ海産ヲ委付シテ其責任ヲ免ルルコトヲ得ヘシト雖モ船舶所有者ニ過失アリタルカ爲メ船長其他ノ船員カ爲シタル以上ノ行爲ヨリ損害ヲ生シタルトキハ船舶所有者ノ責任ヲ制限スル限ニ在ラズ何トナレハ過失ハ自己ノ責任ヲ寬恕スベキ理由タラサレハナリ又船舶所有者カ委付ヲ爲シ得ル運送貨ノ範圍ノ委付ヲ爲シテ責任ヲ免ルルコトヲ得ル債務ノ生シタル航海ニ因リテ取得シ又ハ取得スルコトヲ得ヘキモノニ限リ其以外ノ航海ニ因リテ取得シタル運送貨ニ及ホスモノニ非サレバ其意義ヲ明カニスルカ爲メニ航海ノ終ニ於テ之辭句ヲ加ヘタリ例ヘハ横濱ヨリ香港ヲテ六月中ニ同七月中ニ同都合ニ航海ヲ爲シ其第二ノ航海ニ於テ荷主

ニ對シテ損害ヲ生ジタルヨリ船舶所有者者之ニ對シテ委付スルコトヲ得ヘキ運送貨ハ第二ノ航海ニ因リテ既ニ取得シタル又ハ未タ受取ラザル運送貨ニ止マリ第一ノ航海ヨリ生スルモノニハ及ハザルナリ損害賠償ノ請求權及ヒ報酬ノ請求權ノ如キモ亦同シキナリ

船舶所有者ノ有スル委付權ハ法律カ之ヲ履備契約ニ因リテ生シタル船員ノ權利ニ適用セザルハ他ナシ若シ此場合ニモ他ノ債權者ニ對スルト同シク委付權ノ適用ヲ爲スモノトスルトキハ船員カ履備契約ニ因リテ有スル權利ニ對スル擔保ヲ減シ船員ハ安心シテ就職セザルヲ以テ其保護ノ爲メニ設ケタルナリ

舊商法ハ船員カ同時ニ船舶ノ所有者ナルトキ又ハ股分所有者ナルトキニ付キ特別規定ヲ設ケ他ノ一般ノ場合ニ於ケル船舶所有者ノ責任ト其程度ヲ異ニシタリ即チ船長カ船舶所有者ナルトキハ船長ハ無限ノ責任ヲ負フ然レトモ股分所有者ナルトキハ過失ノ爲メ自己ニ不分ノ責任ノ歸セザルトキニ限リ其股分ノ割合ニ應シテ責任ヲ負ヒ尙ホ不足アルトキハ其不足額ニ對シテ無限ノ責任ヲ負フモノト爲セリ舊商法第八四二條此ノ如キ規定ハ外國ノ立法例ニモ存ス

レトモ學者ノ一般ニ非難スル所ナリ蓋シ船長カ同時ニ船舶所有者ナル場合ニ全財産ヲ以テ責任ヲ負フヘキモノトスルトキハ船長ハ安心シテ航海ニ關スル處置ヲ行フコトヲ得スシテ或ハ弊害ヲ生スルコトナキヲ保シ難ク隨テ航海業ノ發達ヲ害スルニ至ルモ知ルヘカラス故ニ佛國ノ如キモ千八百五十五年ノ法律ヲ以テ此區別ヲ廢シタルハ新商法ハ此點ニ付テハ舊商法ニ存セシ區別ヲ採用セザリシナリ

○委付權ノ消滅 第五百四十五條 船舶所有者カ債權者ノ同意ヲ得スシテ更ニ航海ヲ爲サシメタルトキハ前條ニ定メタル權利ヲ行フコトヲ得ス

船舶所有者ハ船舶及ヒ運送貨等ヲ委付シテ其責任ヲ免ルルコトノ權利ヲ付與セラレテ保護ヲ受クル以上ハ自己モ亦債權者ノ利益ヲ害セザル様努メサルヘカラス故ニ船舶所有者カ船舶及ヒ運送貨等ヲ委付シテ船長其他ノ船員ノ爲シタル行爲ニ付キ其責任ヲ免レント欲セハ委付ヲ爲シテ責任ヲ免ルルコトヲ得ル債務カ生シタルトキハ直チニ其航海ヲ限リ船舶ノ航海ヲ休メ委付ヲ爲ササルヘカラス然ルニ船舶所有者カ債權者ノ同意ナキニ新ニ航海ヲ爲サシメタルト

キハ船舶ハ益毀損朽敗シ甚シキニ至リテ沈没スルコトアラハ債權者ハ之カ爲メニ其債權ノ辨濟ヲ受クルニ付テシテ擔保ヲ減シ又ハ失フニ至リ所謂海產ノ範圍ハ減少シテ委付ヲ許シタル趣旨ニ背戻スヘキヲ以テ此場合ニ於テハ船舶所有者ヨリ委付權ヲ奪ヒ普通ノ原則ニ從ヒ全財産ヲ以テ責任ヲ負ハシムルコトト爲シタリ

○船舶ノ共有  
船舶ヲ二人以上ニテ共同シテ所有スルトキ或ハ之ヲ船舶ノ股分、有舊商法第八四一條以下ト曰ヒ或ハ之ヲ船舶ノ共有ト曰ヒ各共同所有者ノ有スル部分ヲ一方ニ於テハ股分ト稱シ他ノ一方ニ於テハ共有ノ持分ト稱スレトモ是レ孰レモ民法ニ規定スル共有民法第二四九條以下ト全ク其性質ヲ同シウスルヤ將タ異ナルヤニ付テハ舊商法ハ毫モ之ヲ説明セザリシナリ或論者ハ曰ク船舶カ自然人ニ屬スル場合凡ソ三アリ一人專有數人共有及ヒ數人股分所有是ナリ其數人共有トハ民法ニ規定スル共有ノ場合ナリ其數人股分所有トハ一船舶ヲ法律上獨立セル數多ノ部分ヨリ成立スルモノト看做シ其一部若クハ數部ヲ所有

スルヲ謂フ而シテ股分所有者ハ此ノ如ク獨立セル一部ノ所有權ヲ有スル者ナリト雖モ是レ唯法律上ノ觀念ニ止マリ船舶ヲ有形的ニ分割シ其一部ヲ所有スルニ非サルヲ以テ船舶全部ニ對シ不ノ利害關係ヲ有スルナリ故ニ人或ハ股分所有者ハ全員ニテ一ノ組合ヲ爲スモノナリヤト疑フ者アラシ然レトモ各圖ノ法律ニ於テ此股分所有者ト組合トハ全ク之ヲ區別シ船舶ノ全部ヲ數人ニテ共有スルトキハ之ヲ船舶ニ關スル組合ト爲シ其數人ノ所有者カ船舶ノ一部ヲツツ分有スル場合ニハ之ヲ股分所有者ト稱セリ而シテ外國ニ於テハ船舶共有ノ持分、股分ヲ法律ヲ以テ定ムルモノアリ例ヘハ英國ニ於テハ六十四ノ如キ是ナリ或ハ慣習ニ從ハシムルモノアリ例ヘハ佛國ニ於テ法律ヲ以テ其數ヲ定メス慣習ニ依リテ二十四ト定ムルカ如キ是ナリ我舊商法ニ於テ船舶ノ股分ト曰ヒ新商法ニ於テ船舶ノ共有ト曰フモ唯其名稱ノ異ナルノミニシテ其實ハ同一ナリ而シテ我舊商法ニ於テハ船舶ノ共有船舶ノ股分ト組合ト會社トノ關係ヲ明示セザレトモ船舶ノ共有ハ組合ニ非ス亦會社ニモ非スシテ一種ノ共有ト謂ハナルヘカラザレトモ法律カ其性質ヲ明示セザルヲ以テ疑義ノ生スル處ア

リ故ニ新商法ハ股分ナル語辭ヲ用ヒス之ニ代フルニ共有ナル語辭ヲ以テシタ  
 レハ其性質ハ民法ニ規定セル共有ニ關スル規定ニ例外ヲ爲セルモノナルコト  
 明カナリ而シテ船舶ノ共有者間ニハ唯共有ノ關係アルノミニ過キスシテ組合  
 又ハ會社契約ノ存スルヲ必要トセス孰レノ共有者モ他ノ共有者ニ代リ若シ  
 ハ船舶全部ヲ處分スルノ權ヲ有セス亦孰レノ共有者モ他ノ共有者ト一致不分  
 ノ義務ヲ有セス隨意ニ共有ヨリ脫退シ自己ノ持分股分ヲ賣却シ之カ繼承者ヲ  
 以テ代フルコトヲ得ヘシ又他ノ一方ニ於テハ羅馬法ニ於ケルカ如ク共有ヲ廢  
 スルコト(共有物分割民法第二五六條第二五八條)ヲ請求シ船舶全部ノ賣却ヲ以  
 テ自己ノ持分ノ價額ヲ拂受クルコトヲ得ヘキ共有者ノ權利ヲ有セザルナリ而  
 シテ共有者間ニ於ケル權利上ノ關係ハ其締結セル契約ニ依リテ之ヲ定メ此點  
 ニ付テ一モ法律上ノ牽制ヲ受クルコトナキヲ普通ノ原則ト爲スモノニシテ此  
 契約ハ特殊ナル性質ヲ有ス即チ唯之ヲ締結シタル當初ノ當事者間ニ於テ之ヲ  
 遵守スルニ止マラス併セテ後日ノ繼承人モ之ヲ遵守スヘキ義務アリ故ニ多少  
 株式會社ノ定款ニ照シ船舶管理人ハ其取締役ニ似タリ但シ後日此契約ヲ共有

者ニ於テ廢止シ又ハ變更スルコトハ妨ナキナリ然レトモ其共有者間ニ別段契  
 約ヲ結ハスシテ其權利上ノ關係ヲ全ク法律ト慣習トニ放任スルコト許シトモ  
 ス殊ニ互ニ相讓ラス遠隔ノ地ニ居住スル數多ノ共有者間ニ在リテハ契約ヲ取  
 結フコト甚タ困難ナルノミナラス或ハ出來得ヘカラサルコトアリ故ニ法律ニ  
 於テ數多ノ共有者間ノ關係ヲ定ムヘキ概要ノ原則ヲ設ケルハ必要ナリ  
 我新商法ハ舊商法ト同シク船舶共有ノ持分數ヲ法律上定ムルコトナク之ヲ後  
 來生スヘキ慣習及ヒ國民ノ思想ニ放任セリ而シテ佛國ニ於ケル二十四ノ數ハ  
 固ヨリ少キニ過ク何トナレハ船舶ニ在リテハ其一持分ノ價額甚タ大ニシテ少  
 タトモ數萬圓ニ上リ船舶ノ所有權ヲ得ルハ獨リ富有ナル資產家ニ止マルニ至  
 レハナリ英國ニ於ケル六十四ノ數ハ稍適當ナルカ如シト雖モ尙ホ少キヲ免レ  
 ス外國ニ於テハ船舶共有ノ持分ハ船舶ヲ製造セシメント欲スル者概チ自ら其  
 船長ト爲ルノ企望ヲ以テ之ヲ知己其他ノ者ニ讓リテ賣ラ離棄スルヲ以テ生  
 ルコト多シトス而シテ其慕ニ應スル者ハ造船及ヒ修繕ニ關スル工事若クハ其  
 材料ヲ以テスルコト少カラズ故ニ獨逸ニ於テハ船舶共有ノ持分ノ數ヲ定ムル

コトナク船ニ依リテ其數ハ各異ナルコトヲ得ルヲ以テ其數ハ千乃至數千ニ過  
 スルコトナシトセス然レトモ一人ニシテ數多ク持分ヲ有シ又ハ數人ニシテ一  
 箇ノ持分ヲ共有スルモ妨ナク但シ此共有ノ場合ニ於テハ一人ノ總代ヲ置キ代  
 人ヲラシムルナリ

○船舶ノ利用ニ關スル規定 第五百四十六條 船舶共有者ノ間ニ在リテハ船  
 舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決  
 ス(舊商法第八四五條佛商法第二二〇條獨舊商法第四五八條)  
 船舶モ二人以上ノ共有ナルトキハ總テ船舶ニ關スル事項ハ共有者總員ノ同意  
 ヲ以テ之ヲ算セス共有者ノ持分ノ數ニ依リテ算スルコト普通ノ例規ナリ故ニ  
 共有持分ノ數百箇ナルトキハ五十一又其數六十四ナルトキハ三十三ノ持分同  
 意シタル決議ハ有效ニシテ他ノ共有者ノ持分ハ之ニ從ハサルハカラス而シ  
 テ共有者ノ員數ハ一モ之ヲ問フコトナシ共有者ノ一人ニシテ全數ノ過半ヲ  
 超ユル持分ヲ有スルトキハ過半數タルナリ而シテ船舶ニ關スル事項ハ種種  
 アレトモ舊商法ノ如ク之ヲ總テ議決權ノ過半數ヲ以テ決定セシムルハ過半數

ヲ以テ決定スル事項ノ範圍廣ニ失セリ佛國ノ如キハ過半數ヲ以テ決定スル事  
 項ハ共同ノ利益ニ關スルコトノミニ之ヲ制限シ又獨逸ハ過半數ニテ決定セシ  
 ムル事項ト共有者ノ一致ヲ要スル事項トヲ區別セテ規定セリ故ニ本法ニ於テ  
 モ船舶ニ關スル事項ハ總テ之ヲ過半數ヲ以テ決定セシメス其中區別ヲ設ケ船  
 舶ノ利用ニ關スル事項ニ限リ過半數ヲ以テ決定スルコトト爲シタリ是レ共有  
 ノ規定ニ關スル民法第二百五十二條ノ文例ニ同シキナリ船舶ノ利用以外ニ涉  
 ル事ハ共有者總員ノ同意ヲ要スルハ論ヲ埃タサルナリ例ヘハ船舶ヲ賣却スル  
 カ如キハ船舶ノ利用ニ非シテ共有ヲ解除スルニ歸屬スルモノナレハ共有者  
 總員ノ同意ヲ要スルナリ

○船舶利用ノ費用 第五百四十七條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶  
 ノ利用ニ關スル費用ヲ負擔スルコトヲ要ス(獨舊商法第四六七條)  
 船舶ノ利用ニ關スル事項ヲ共有者ノ員數ノ過半數ヲ以テ決定セシムル其持分  
 ノ價格ノ割合ニ從ヒ其過半數ヲ以テ決定スト爲シタル以上ハ船舶ノ利用ニ關  
 スル費用モ亦議決權ニ於ケルト同シク共有者ノ持分ノ價格ニ應シテ負擔スヘ



キモノト爲スハ至當ナリ是レ共有ノ規定ニ關スル民法第二百五十三條ト同一ノ趣旨ナリ  
 ○船舶共有者ノ脱退 第五百四十八條 船舶共有者ハ新ニ航海ヲ爲シ又ハ船舶ノ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキハ其決議ニ對シテ異議アル者ハ他ノ共有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得前項ノ請求ヲ爲サント欲スル者ハ決議ノ日ヨリ三日内ニ他ノ共有者又ハ船舶管理人ニ對シテ其通知ヲ發スルコトヲ要ス但此期間ハ決議ニ加ハラナリシ者ニ付テハ其決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリ之ヲ起算ス舊商法第八四五條第三項舊商法第四百六十八條  
 船舶ノ利用ニ關スル事項ニ付キ多數者ト意見ヲ異ニセタル少數者ハ其船舶ノ共有持分ニ課セラレタル費用ハ如何ニ多額ナリトモ之ヲ負擔セサルヘカラサルヤノ問題アリ若シ各共有者カ其持分ノ價格ノ割合ニ應ジテ必スシモ之ヲ負擔セサルヘカラサルモノトスルトキハ共有者中ニハ實力乏シクシテ其負擔ニ堪ヘタル者ナシトセス此問題ニ付テハ各國ノ法律一ナラスシテ種種ノ規則アリ

佛國商法ハ此點ニ付キ直接ニ規定シタル所ナキカ爲メニ少數者ハ百種ノ費用ヲ分擔セサルヘカラサルコトハ其多數決ニ從フヘシトノ語句ノ中ニ包含スルモノトセサルヲ得然レトモ其費用ハ必要ノ程度ヲ超ユヘカラサルコトヲ定ムルカ故ニ船舶ノ修繕等ハ鑑定人ヲシテ鑑定セシメ最低價額ノ請負人ヲシテ請負ハシメサルヘカラス獨逸舊商法第四百六十七條第四百六十八條ニ於テハ少數者ハ其出金ヲ避ケンカ爲メニ自己ノ持分ヲ無償ニテ拋棄スルコトヲ得ヘク而シテ其持分ハ他ノ共有者ニ同一ノ割合ヲ以テ配分ス英國ニ於テハ多數者ノ權ハ此ノ如ク大ナラス多數決ヲ以テ新事業ヲ起スハ妨ナシト雖モ其費用ハ同意者ノミニ於テ支辨セサルヲ得且ツ少數者ノ持分ノ價格ヲ保證シ若シ損失アル場合ニハ之ヲ賠償セサルヘカラス少數者ハ其事業ノ費用ヲ出スノ義務ナク隨テ其利益ヲ受クルコトモ亦之ナシトス  
 英法ハ法理ニ適セサル所アリ何トナレハ一方ニハ多數者ニ全ク少數者ヲ排斥スルノ權ヲ付與シ他ノ一方ニ於テハ少數者ヲシテ不同意ノ爲メ其責任ヲ免レタシノミナラス尙ホ利益ノ保證アレハナリ又獨法ハ不同意ノ少數者ヲシテ

毫モ賠償ヲ受クルコトナク其持分ヲ拋棄セシムルハ酷ニ失スルナリ故ニ我新  
 商法ハ此等ノ立法ニ倣ハス船舶ノ利用ニ關スル事項ハ既ニ敘述シタルカ如ク  
 第五四六條其原則トシテハ少數者ハ多數者ノ意見ニ屈從セサルベカラサルモ  
 ノト爲シタレトモ例外ナク其原則ヲ適用スルモノト爲ストキハ少數者ニ對シ  
 テ頗ル酷ナルヲ以テ其事項中重大ナルモノニ付テハ少數者ヲシテ多數者ノ意  
 見ニ屈從セシメサルモノト爲セリ而シテ其場合ハ法律ニ於テ限定シ新ニ航海  
 法爲シ又ハ船舶ハ大修繕ヲ爲スヘキコトヲ決議シタルトキニ限ルモノトシタ  
 リ故ニ此等二箇ノ場合ニ於テ少數者カ出金スルコトヲ欲セサルトキハ他ノ共  
 有者ニ對シ相當代價ヲ以テ自己ノ持分ヲ買取ルヘキコトヲ請求スルコトヲ得  
 ヘシ而シテ法律ハ此等二箇ノ場合ニ限リタルカ故ニ其他ノ事ニ因リテ新支出  
 ヲ議決シタル場合ニ於テ少數者カ之ヲ欲セサルトキハ他ノ共有者以外ノ者ニ  
 自己ノ持分ヲ讓渡スヨリ外アラサルナリ  
 法文ニアル新ニ航海法爲シトハ單ニ出港ヲ爲スノ謂ニ非スシテ一ハ新航路ヲ  
 開クコトヲ謂フナリ例ヘハ從來米國桑港ト長崎トノ間ニ航海ヲ爲セシヲ更ニ

香港マテ延長スルカ如キ場合はナリ  
 決議ニ對シテ異議アル者カ自己ノ共有持分ヲ他ノ共有者ヲシテ買取ラシムル  
 コトノ請求ハ迅速ニ爲ササルヘカラス此ノ如キコトハ長キ間曖昧ニ付スヘカ  
 ラサルヲ以テ法律ハ右ノ請求ヲ爲サント欲スル者ニ對シ決議ノ日ヨリ三日内  
 ニ他ノ共有者又ハ管理人ニ其通知ヲ發セサルヘカラサルコトト爲セリ若シ此  
 請求ヲ爲サント欲スル者カ如何ナル事由アリトモ右期間内通知ヲ爲ササルト  
 キハ他ノ共有者ヲシテ自己ノ持分ヲ買取ラシムヘキ權利ヲ喪失スルモノトス  
 而シテ決議ニ加ハラザリシ者ハ其決議ヲ了知セサルヲ常トスレハ此者ニ對シ  
 決議ノ日ヨリ三日内ニ請求ヲ爲スヘキモノト爲ストキハ知ラサル間ニ期間經  
 過スヘキヲ以テ此場合ニ於テハ決議ノ通知ヲ受ケタル日ヲ翌日ヨリ起算シテ  
 三日ト爲セリ  
 三日ノ期間ノ起算方ニ付キ注意スヘキモノアリ民事訴訟法第一六五條民事訴訟  
 法第一五條及ヒ民法第一四〇等ニ依ルトキハ期間ヲ計算スルニ日ヲ以テスル  
 モノハ其初日ヲ算入セサルヲ原則ト爲セトモ本條ノ場合ニ於テハ一ハ決議ノ



日ヨリ三日内トアリ他ノ一ハ決議ノ通知ヲ受ケタル日ノ翌日ヨリトアリ若シ此場合ニ於テ民法ノ期間ニ關スル原則ニ依ラシムヘキモノナラハ以上ノ如ク區別ヲ爲スヘキ必要アラザルナリ故ニ此場合ニ於テハ特ニ三日ノ期間ノ初日モ期間内ニ算入スヘキモノト解セサルヘカラス

○船舶利用ノ債務 第五百四十九條 船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ辨濟スル責任ニ任ス

○關係ニ止マルモノナレバ是レ各共有者カ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ノ關係ニ對シテ辨濟スルニハ如何ナル責任ヲ有スルヤノ事ヲ規定シタルニ非タルナリ是ヲ以テ法律ハ別ニ本條ヲ設ケテ共有者ノ第三者ニ對スル關係ヲ規定セタリ而シテ二人以上ノ者カ共同シテ法律行為ヲ爲シ債務ヲ負擔スル場合ニ於テ別段ノ意思表示ナキトキハ各債務者ハ平等ノ割合ヲ以テ之ヲ辨濟スルニ止マルコトハ民法第四二七條ノ原則ナリト雖モ商法ニ於テ二人以上ノ者カ共同シテ商行為ヲ爲シタルトキニ在リテハ商取引ヲ安全ナラシメ當事者ニ便

宜ヲ與フルノ必要上民法ノ原則ヲ採用セシテ其債務ハ各自連帶ニテ之ヲ負擔スヘキヲ以テ通則ト爲セリ第二七三條而シテ是レ獨リ我新商法ノ主義ナルノミナラス各國ノ立法例並ニ舊商法第二八七條ノ共ニ認ムル所ナリ故ニ船舶共有ノ場合ニ於テモ商行為ニ關スル規定アルニ止マラハ此規定ニ從ヒ其船舶ノ利用ニ付テ第三者ニ債務ヲ生シタルトキハ各共有者連帶シテ之ヲ負擔セザルヘカラスト雖モ海商法ノ規定ハ航海業獎勵ノ爲メ他ト異ナリテ危險分擔ノ主義ヲ採レルカ故ニ此場合ニモ商行為ノ通則ヲ適用スルトキハ右ノ主義ニ反シ航海業ノ進歩ヲ妨害スルノ虞アリ是ヲ以テ商行為ニ關スル通則ノ例外トシテ船舶共有者ハ其持分ノ價格ニ應シ船舶ノ利用ニ付テ生シタル債務ヲ分擔スルモノト爲セリ故ニ船舶共有者カ其船舶ノ債務ニ付キ債權者ニ對スル責任ハ民法ノ共有ノ場合ト同一ニ歸セリ而シテ各共有者カ其持分ノ價格ニ應シテ債務ヲ辨濟スル責任アルハ雖モモ説キタルカ如ク船舶ノ利用ニ關スル事項ハ各共有者ノ持分ノ價格ノ割合ニ從ヒ其過半數ヲ以テ之ヲ決スルコトト爲シタル以上ハ共有者間内部ノ關係第五四七條ト同シク其三者ニ對スル場合ニ於テモ

各共有者ノ持分ノ價格ノ割合ニ從テモノトスルハ至當ノ事ニ屬ス

○損益ノ分配 第五百五十條 損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ船舶共有者ノ持分ノ價格ニ應シテ之ヲ爲ス(獨賣商法第四六九條)

損益ノ分配ハ共有者ニ於テ特ニ契約ヲ爲シ其割合及ヒ時期ヲ定メタルモノアルトキハ之ニ從フヘキコトハ論ヲ俟タズト雖モ其特約ナキ場合ニ於テハ損益ハ何時之ヲ分配スヘキカ又其割合如何ハ問題ヲ生スヘキヲ以テ法律ハ之ヲ規定シ損益ノ分配ハ每航海ノ終ニ於テ爲スヘク而シテ其割合ハ各所有者ノ持分ノ割合ニ應スヘキコトト爲シタリ蓋シ損益分配ノ時期ヲ每航海ノ終ト爲シタルハ船舶ニ付テハ一航海毎ニ損益ノ計算ヲ爲スコトヲ得ヘケレトモ其航海中ニ在リテハ之ヲ決定スルコト能ハサルヲ以テナリ又持分ノ價格ノ割合ニ應シテ損益ヲ分配スルハ曩ニ船舶ノ利用ニ關スル費用並ニ債務ノ負擔ニ付キ説キタルト同一ノ理由ニ基キタリ至當ノ規定ナリ

○共有持分ノ讓渡 第五百五十一條 船舶共有者間ニ組合關係アルトキト雖モ各共有者ハ他ノ共有者ノ承諾ヲ得ズシテ其持分ノ全部又ハ一部ヲ他人ニ讓

類ノ人類タル社会的ノ性質ヲ具ヘ共同ノ生活ヲ爲スモノヲ謂フナリ

○野蠻時代ノ原人ハ獨立ト曰ハンヨリハ寡口孤立ト曰フヘキモノニシテ他ト社會上ノ關係ヲ有スルコトナク獨リ自ラ持シ自ラ漁シテ生活ヲ立テ衣服ノ如キハ全ク之ヲ有セザリシ者モアレハ僅ニ狩獵ニ因リテ得タル禽獸ノ羽毛ヲ身ニ纏フニ過キザリシ者モアリ此種ノ人類ハ形容的ニ言ヘハ且ニ生産シテ消費シテ漸ク生命ヲ繋クモノナレトモ實際ハ猶ホ甚シ彼等ハ實ニ生産スルヤ否ヤ直チニ消費シ以テ漸ク生活セルノミ是ヨリ一步進ミテ事物ヲ經營スルコト毫モ之ナレ況ヤ學問ヲ研究シ文明的ニ生計ヲ改良ヲ爲ス一カ如キハ彼等ノ夢想タモ及ハタル所ナリ此ノ如キ者ハ經濟學ニ所謂人類ニ非ス

○種ノ動物ト謂フヘキモノニシテ之ヲ研究スルハ一種ノ私經濟學又ハ個人經濟學ト稱スルヲ得ヘキモノナルヤモ知ルヘカラザレトモ今日ノ經濟學ハ人類ノ相聚リテ團體ヲ爲シ種種ノ關係ニ立テ社會ヲ組成シテ生存ヲ共同ニスル人類ニ關スル學問ナリ然レトモ此所ニ所謂社會トハ今日ノ社會ノ如ク完全ナルモノニ限ラス總令野蠻人ノ酋長ノ命令ノ下ニ行動スル者ト

モ彼等ノ間ニハ既ニ幾分カ分業ヲ行ハレ隨テ其因リテ生産シタル貨物ノ交  
換カ行ハルル社會ナラハ則テ可ナリ收テ完美ナルヲ要セタルナリ、  
斯ル人類ノ間ニハ宗教道德政治法律等ノ現象アリテ之ヲ攻究スルニハ夫レ夫レ  
専門ノ學科アリ而シテ其財貨ニ關スル現象ヲ攻究スル學科ヲ稱シテ廣ク之ヲ經  
濟學ト曰フ故ニ經濟學ハ社會ニ關スル學問ノ一ニシテ其研究スル所ハ社會ノ  
一分子トシテノ人類ニ關スルモノト知ルヘシ、(二) 原人ノ間ニ行ハルル財貨ニ  
(三) 前ニ述ヘタルカ如ク社交的ノ性質ヲ具ヘ共同的ノ生活ヲ爲ス人類カ  
相集リテ不完全ナカクモ一ノ社會ヲ組織セハ茲ニ一種ノ國家的團體生ス而  
シテ此團體ニ屬スル人類ノ間ニハ種種様様ノ現象生スヘシ即チ人類ハ自己  
ノ過去未來ニ對スル想像又ハ希望畏懼等ノ觀念ヨリシテ自然宗教的ノ考ヲ  
起スニ至リ茲ニ宗教現象生ス又人類相集リテ社交的ノ生活ヲ爲ス以上ハ其  
相互ニ守ルヘキ道アリ且ツ讓合ハタルヘカクサレコトモアルヨリシテ日常  
生活ノ標準ト爲リ居家處世ノ方針ヲ與フル道德ノ現象生ス其他公共ノ關係  
ヨリシテ政治法律文學美術等ノ現象モ自生セサルヲ得ヌ今一詳ニハ之

ヲ述ヘス其中ニ就キ一種ノ現象ハ確ニ經濟ノ現象ナリ而シテ此等々社會現  
象ノ起ル順序ヨリ論スレバ經濟現象ハ普通ノ意味ニ於ケル道德宗教現象ノ  
前ニ生スルコトアルヘシ然レトモ發生ノ前後ハ容易ニ之ヲ決スヘカラス而  
シテ此經濟現象ヲ攻究スルハ廣義ノ經濟學ニシテ之ヲ如何ナル觀察點ヨリ  
シテ攻究スルヤハ經濟學ノ各部門ニ依リテ異ナル所ナリ例ヘハ單ニ事實ニ  
關スル法則ノミヲ攻究スルハ純正經濟學ニシテ之ニ對スル政策ノ方針ト手  
段方法トヲ論究スルハ經濟政策學ナルカ如シ其詳細ハ後ニ述フヘシ而シテ  
此ノ如クシテ經濟現象ニ關スル攻究ヲ爲スモノハ即チ廣義ノ經濟學ナリト  
スル以上ハ經濟學ノ人類ニ關スル學問ナルヤ勿論ノ事ナリト謂ハサルヘシ  
ラス而シテ經濟學ニ所謂人類トハ社會ノ一分子トシテ存在スル人類ナリ是  
レ前既ニ人類社會ニ關スル云云ト言ヒヨリシテ明白ナル所ナレトモ唯注  
意ノ爲メ茲ニ之ヲ述ヘ置カン

關スル現象ハ之ヲ商人經濟現象又ハ私經濟現象ト稱シ商人經濟學又ハ私經濟  
學ナルモノノ攻究スヘキ所ニシテ予ノ所謂經濟學ノ本來攻究スヘキモノニ非

ス經濟學ハ實ニ日本支那英佛獨等ノ如ク社會國家ヲ成セル國民ノ財貨ノ關係ニ  
ル現象並ニ國民ト國民トノ間ニ存在スル財貨上ノ關係等ヲ攻究スルモノナリ  
經濟學ハ畢竟社會國家ノ觀念ヲ離レテ存在スルモノニ非ス(二三)

(二四) 原人ノ社會ヲ組織セズ箇箇別別ニ孤立セル者モ前既ニ一言シタル  
如ク自ラ生産シ自ラ消費シ多少物質的ノ意味ニ於ケル經濟行為ヲ爲スモノ  
ナリ然レトモ是ハ是レ單ニ個人經濟ノ現象又ハ私經濟ノ現象ト名クヘキモ  
ノニシテ個人經濟學又ハ私經濟學ノ講究スヘキモノナリ但シ個人經濟學又  
ハ私經濟學ナルモノハ予ノ所謂經濟學ト全ク分離獨立シテ存スルモノナル  
ヤ否ヤハ自ラ別問題ナリ若シ獨立ニ存在スルヲ得ルモノナラハ個人經濟ノ  
現象私經濟ノ事ハ其宜シク研究スヘキ所ナリ而シテ原人ハ生理上人類ト稱  
シ得ルモノ之ニ關スル研究ハ予ノ所謂經濟學ト爲スヘキ所ニ非ス經濟學ハ社  
會國家ヲ組成セル國民中ノ經濟現象又ハ社會國家ヲ組織セル國民ト他ノ同  
様ノ國民トノ間ニ起ル經濟現象即チ國際間ノ貿易貸借上ノ關係交通上ノ關  
係等ヲモ攻究スルモノナリ故ニ經濟學ノ攻究スヘキ現象ノ中ニハ單ニ一國

内ニ行ハルモノノミナラス國境ヲ見サル國際的ノ經濟現象モ亦之  
アリトス然レトモ此等ノ國際的ノ經濟現象ハ社會國家ヲ組織スル國  
ノ間ニ行ハルモノナルカ故ニ經濟現象ハ國境ヲ知ラストノ謬ハ其社會國  
家ヲ離レテ論クモノナリトノ謂ニ非ス之ヲ換言スレハ國際的ノ經濟現  
象ハ社會國家ノ存在スルコトナキモ行ハルモノニ非ス之アルモ其活動一  
國ノ版圖内ニ限ラサルモノナリ之ヲ要スルニ經濟學ノ攻究スル所ハ國家社  
會ノ觀念即チ有機的ノ組織ヲ爲ス所ノ人類ヲ離レテ存在スルモノニ非ス  
而シテ社會國家ハ國家的ノ制度文物多少具備スルニ非サレハ存在スルコト能  
ハス經濟學ノ材料タル財貨上ノ現象ハ政治法律等ノ現象ト全ク分離シテ論ク  
コト能ハス勿論或場合ニ或一國ニ於テ或法律カ全ク經濟上ニ影響ヲ及ボサザ  
ルコトアルハ往之アル事ナレトモ全體ニ於テ國家ノ政治法律具備スルニ非  
サレハ經濟現象ナルモノ絶ニテアルコトナシ(二四)是ヲ以テ單ニ經濟學ト曰ヘハ  
(二四) 社會國家ハ所謂國家的ノ制度組織具ハルニ非サレハ成立スルモノニ  
非ス人類ノ性質ニシテ現在ノ如クナル以上ハ彼ハ到底國家ヲ組織シ社會ヲ

成ナラハカラス故ニ經濟現象ハ政治法律等ノ現象ト密著セツヘカラサルノ關係ヲ有スルモノナリ然レトモ必スシモ總テノ經濟現象カ或特別ノ法律ト關係ヲ有シ或ハ特別ノ政治ノ方針ト相伴フモノナリト謂フヲ得ス或場合ニハ法律ノアルト否トニ拘ラス經濟現象カ獨立シテ働クコト屢之アリ例ヘハ必スシモ會社法ノ規定ヲ竣チテ而シテ後始メテ會社組織ノ經濟現象カ生スルモノニ非ス或場合ニハ會社法ニ種種様様ナル會社ノ種類ヲ擧ゲ實際其國ニナキモ外國法ヲ參照シテ規定シタルモノアルニ數年ノ後始メテ其特別ノ會社カ發生スルコトアリ是レ法律カ會社ヲ作ルニ非ス法律カ豫メ經濟上ノ趨勢ヲ想像シ立法政略トシテ規定シタルニ豫期シタルカ如ク或種類ノ會社カ生セシナリ然レトモ其生スルコトナクシテ條章ノ空文徒法ニ流ルルコトアリ以上ノ場合ハ經濟現象ニ關係ナキ法律ノ存スル場合ナレトモ之ニ反シテ法律ニ會社ノ規定ナキモ經濟社會ニ於テハ實際會社ト稱スヘキ團體生シ種種ノ作用ヲ爲スコトアリ此場合ハ法律ノ制定以前ニ經濟現象ノ生シタル場合ナリ英國ニテハ法律ノ制定以前ニ種種ノ經濟現象生シ之カ取締等ノ

必要上後ニ至リテ種種ノ法律設ケラルルコト往往之アリ此ノ如キ例ヲ見レハ經濟現象ト法律現象トハ關係ヲ有スト謂フヲ得ナル如キモ是レ特別ノ法律特別ノ場合ナリ此所ニ所謂離ルヘカラサルノ關係トハ全體ニ於テ法律系統ト經濟現象トカ密著ノ關係アリト云フコトニシテ一部分カ關係ナキコトアルモ此特例ヲ以テ法律現象ト經濟現象トハ全ク關係ナキモノナリト斷言スルヲ得ス況ヤ此ノ如キ場合ハ一時限リモノニシテ法律制定當時ニハ何等ノ關係ナキモ時ヲ經ルニ從ヒ其關係自然生スルコトアリ又經濟現象アリテ法律ナキモ必要上法律ヲ制定スルニ至ルコトアリ政治ノ大方針ニ從テ孰ル所ノ手段方法モ亦同シク一時ノ政略特別ノ手段トハ異ナリ一國ノ經濟現象ト密著ノ關係ヲ有セサルナシ

社會國家ノ經濟ヲ論究スル學問ナリ是レ古來ノ經濟學者カ常ニ説ク所ニ據ルモ亦明カナリ彼等ハ往往簡人的ノ觀念ヲ基礎トシテ立論スルコトアリト雖モ其所謂經濟中ニハ決シテ商人經濟ノ現象ヲ説カサルナリ(二五)然ルニ近年世ノ(二五)以上述ヘタル所ニ由リテ之ヲ觀レハ單ニ經濟學ト曰ヘハ社會國家ノ

經濟ニ關スル學問ナルコト明カナリ此點ハ吾來種種ノ學者カ經濟學ヲ説ク  
 其ニ此語ヲ如何ナル意味ニ用ヒタルヤヲ見テ知ルヲ得ヘシ英國舊派ノ經濟學  
 者ハ皆箇人主義ニ基キ立論スルモノナレトモ「アダム・スミス」「リカード」等  
 ノ論スル所ハ皆一般社會國家ノ經濟ナリ此等ハ唯立論ノ發スル根據ヲ異ニ  
 シタルモノノミ其進ミテ説ク所ハ社會國家ノ公共經濟ナリ決シテ箇人ノ私  
 經濟ニ非サルナリ

風潮ニ從テ新奇ノ名辭ヲ好ミ經濟學ニ冠ラシムルニ國家ノ二字ヲ以テ之ヲ  
 名ケテ國家經濟學ト曰フ者アリ是レ多クハ國家主義ノ誤解ヨリ生セル偏見ニ  
 基ヒスルニ非サレハ獨逸語「ナチヨナル」オエコ「ミ」ヲ直譯シタルニ過キス  
 必スシモ以テ大過失ト爲スニ足ラサレトモ無用ノ勞タルノミ既ニ古來ノ用  
 語法ニ從フモ經濟學ノ國家經濟ニ關スルヤ勿論ナレハ今更新ニ國家經濟學ヲ  
 フ名辭ヲ既ニ錯雜ヲ極メタル我學問界ニ加フルニ及ハサルナリ

況ヤ國家經濟學ト云ヘハ其範圍單ニ經濟學ト云フヨリモ斯學ノ正當ニ論スヘ  
 キ範圍ヨリモ稍ヤ狹隘ナルカ如キ感覺ヲ人ニ與スルノ恐アルニ於テヤ國家

經濟學ト云フトモハ一國內ニ行ハルル經濟法則ノミヲ論スル學問ノ如クニモ聞  
 ニ一國ノ財政ヲミヲ論スル學問ノ如クニモ聞キ然レトモ經濟學ハ單ニ一國內  
 ニ行ハルル經濟法則ノミヲ研究スルモノタルニ止マラス國際間ニ行ハルル經  
 濟法則モ亦其論スル所ナリ又財政ヲ論スルハ單ニ經濟學ノ一小部分ニ過キサ  
 ルナリ (一六) 一小部分ト誤解セラルルノ恐アル名辭ヲ以テ之ヲ全體ニ適用セシ  
 (一七) 財政學ハ經濟等ノ應用ノ部分ニ屬ス近來之ヲ獨立ノ學ナリト論スル  
 學者アレトモ是レ妥當ナラス尙ホ後ニ經濟學ノ部門ヲ論スルニ當リ詳述ス  
 べシ

トス是レ學問上方メテ避ケサルヘカラサルコトナリ故ニ國家經濟學ヲフ新規  
 ノ語ハ全ク之ヲ用ヒスシテ古來ノ習慣ニ從ヒ別ニ差支ナキ經濟學ヲフ名辭ヲ  
 用フルコソ最モ得策ナレ

此點ヨリシテ予ハ理財學ヲフ名辭ヲモ採ラサルナリ其故ハ第一此名辭ハ本邦  
 ニ於テ舊來慣用スル所ニ非スシテ近年ニ至リ始メテ往住用ヒラルルニ至リタ  
 ルモノナレハ未タ其意義ヲオモ知ラサル者多キニ在リ第二理財ナル熟語ハ實



意義稍ヤ狹隘ニシテ財政ト云フニ同シキカ如シ是レ吾人カ往往格方大藏大臣ノ理財其宜キヲ得タリトカ又ハ大隈伯ノ理財術坏ト言フヲ聞ク所以ナリ  
 (二)也夫レ「財者人所寶也」トハ説文ニ在ル所ナリ徐氏筆精ニ「可レ人用者也又穀也」  
 (三)也 理財ヲフ語ハ凡ソ二十年前ニ始メテ用ヒラレ此語ヲ以テ從來ノ經濟學ヲフ語ニ代用スルノ議論ハ勢力ヲ得文部省並ニ其直轄學校特ニ當時ノ大學等ニ於テモ用ヒタルナリ其當時ハ經濟學ノ觀念ヲ今ヨリモ狭ク解シ英派ノ説ク所ニ從ヒ富ノ生産分配交易ニ關スル原則ヲ論スルモノト爲シ嚴格ナル理財ヲフ語ハ稍ヤ漠然タル經濟ヲフ語ヨリモ可ナリトノ理由ヨリシテ理財學ノ名稱一般ニ行ハレシナリ然レトモ經濟學ト云ヘハ新學ノ大體ノ觀念ヲ得ルニ近キニ反シ理財學ト云ヘハ耳新ラシク之ヲ特ニ學フ者ノ外世人一般ノ觀念ニ入り難キ語ナリ而シテ學問上ノ語ハ必スシモ一般ノ用語ヲ避ケ故ラニ新規ノ熟説ヲ用ヒテ得意トスヘキモノニ非ス平易ノ語ニシテ意味ヲ明カニスルヲ得ハ寧ロ之ヲ用フルヲ可ナリトス唯其意味ヲ表ハスコト能ハサルカ如キ萬已ムコトヲ得サル場合ニ於テノニ新規ノ語ヲ用フヘキノミ案

ニ難解ノ新語ヲ用ヒテ學理ノ奧義ヲ得タリト爲スハ抑モ誤レリ之ヲ要スルニ經濟學ヲフ語ハ世俗ニ通シ易ク理財學ヲフ語ハ解シ難キノ缺點アリ此缺點ハ敢テ大ナラストスルモ次ニ此語ハ狹隘ニ過タルノ缺點アリ抑モ經濟學ハ單ニ富ノ生産分配交易ニ關スル原則ノミヲ攻究スルカ如キ狹隘ナルモノニ非ス尙ホ進ミテ其原則ヨリ推シテ社會國家ノ經濟ニ對シテ執ルヘキ政策上ノ手段方法ヲモ攻究スルモノナリ故ニ狹キ意義ノミヲ表ハスニ適スル語ヲ用フルハ不可ナリ特ニ理財ト云ヘハ「財政」ト同様ニ聞ヘ國家經濟ト云フト同一ノ缺點アリ財政ノ語ニ代フルニ理財ノ語ヲ以テスルハ從來屢之アリタル事ニシテ今日ニテモ此意味ニ用フルコトアリ現ニ或人ノ如キハ常ニ此意義ニ用ヒ居レリ財政ノ語ニ代ヘテ理財ノ語ヲ用フルハ經濟ノ語ニ代フルニ理財ノ語ヲ以テスルニ勝レリ然レトモ何故ニ財政ノ語カ不適當ニシテ理財ノ語ヲ用ヒタルヘカラサルヤハ其理由ヲ知ルニ苦シム所ナリ  
 ト曰ヒ玉篇ニ「精財謂ニ食穀也貨也賂也」ト説キ易ノ繫辭ニ「何以聚人曰財」ト曰フ註ニ「財所以資物生也」ト曰ヘリ禮坊記ノ註ニ「財幣帛也」トアリ又禮記ニハ



財物也各是土地之物ト註セリ(一〇)左レハ財トハ人ノ欲望ヲ滿タスニ適當ナル  
 (二〇) 禮記ニ財ハ物ナリト謂フハ尙ホ可ナレトモ土地ノ物ト謂ヘルハ當時  
 農業時代ニシテ商工業ノ發達ナカリシ故單ニ土地ヨリ生スル米麥等ノ穀物  
 ノミノ觀念ヲ以テ此ノ如ク註セシナラン  
 材料ナルヤ明カナリ又理字ノ意義ハ玉篇ニ正也道也文也下アリ中庸ノ朱註ニ  
 ハ「理條理也」下アリ是ニ由リテ之ヲ觀レハ理トハ法則ノ事ニ相違ナク財理ト謂  
 フトキハ財ニ關スル法則ナルヘケレバ蓋リチカルモノミ「理」ヲ譯シテ財理ト謂  
 ト曰ハントヨリモ事ハ財理學ト云フ方適ニ勝レリ(一〇)九加之理ノ字ハ法則ノ事ヲ  
 (二〇)九 物理學生理學等ニハ理ノ字ヲ下ニ用ヒナカラ理財學ヲフ結合ニハ故  
 ラニ理ノ字ヲ上ニ使フハ權衡ヲ得タルモノニ非ス  
 指セドモ又理財ト云フカ如キ結合ニ於テハ動詞ト爲ラテ理ルルト云フカ本義  
 ナリ木目ヲ木理ト云フヨリシテ考フルニ理ハ元來玉ノ筋ヲ曰トナラシ故ニ物  
 ノ筋立ヲ爲シテ治ムルコトヲ理トハ謂フナリ(一〇)唐ノ文ニ治ノ字ヲ用ラハ  
 (二〇) 唐憲理大臣陸軍ノ理軍海軍ノ主理會社ノ理事等皆此用例ニ從ヘリ

キ所ニ管理ノ字ヲ換用セリ是レ高宗ノ諱ヲ避ケタレハナリ此等ノ事例ニ據ル  
 モ治理和換用スヘキ義アルコト知ルヘシ勿論理財ノ熟語ハ唐以前ニ往住用ヒ  
 ラレタルモノナレトモ理財ハ治財ノ意義ナルコト更ニ疑フヘタモアラヌ又以  
 テ理財學トハ寧ロ財政學ニ當ルヲ知ルヘキナリ理財學ト云フ熟語ハ頗ル可ナ  
 ルヘレト雖モ古來慣用シ來リテ別ニ不都合ヲ感セザレハ予ハ故ラニ新規ヲ選  
 ハスレテ寧ロ經濟學ト云フヲ適當ト信ス若シ強ヒテ新規ノ名稱ヲ用レント欲  
 セハ寧ロ國民經濟學若クハ社會經濟學ト名タル方適ニ適當ナラン予ノ如キハ  
 後者ヲ最モ適當ナリト考フル者ナレトモ故ラニ新規ヲ欲セザレハ單ニ之ヲ經  
 濟學ト稱スルヲ得策ト考フル者ナリ(二二)

(二二) 國民經濟學ヲフ語ハ前既ニ述ヘタル國家經濟學ヲフ語ニ比シ稍ヤ優  
 レトモ亦之ト同様ノ批難ヲ免レヌ即チ國民ト國民トノ間ニ於ケル國際間ノ  
 經濟現象ニ適用スルニ當リ稍ヤ狹キヲ感ス社會經濟學ト云ヘハ此ノ如キ缺  
 點ナシ社會ハ國家ナケレハ成立セズ社會ト國家トハ離ルルハカラサルモノナ  
 レトモ社會經濟學ヲフ語ハ國際間ノ經濟現象ニモ適用スルヲ得ヘシ然レト

モ此ノ如ク名クルトキハ或ハ新學ヲ以テ一般經濟ノ現象ヲ攻究スルモノニ  
 非スシテ社會問題ノミヲ攻究シ勞動者等ニ關スル事項ノミヲ攻究スルモノ  
 ニ非スヤトノ誤解ヲ來スモ知ルヘカラス現ニ此語ヲ此意味ニ用フル者モア  
 リ故ニ以上ノ二語ハ其ニ得失アリ未タ遽ニ贊スヘカラスルノミナラス縱令  
 適當ナリトスルモ故ラニ改ムルノ必要ヲ認メタルナリ故ニ予ハ何所マテモ  
 經濟學ヲフ簡單ナル名辭ヲ維持スル者ナリ

外國ニ於テモ經濟學ノ名稱ニ付テハ頗ル異說アルモノ如シ「ミル」フオーセツ  
 ト等ハ他ノ英國經濟學者ノ多數ト同シク斯學ヲ「ボリチカル、エコノミー」ト名ケ  
 「マーシャル」ハ之ヲ「エコノミックス」ト稱シ佛人ハ之ヲ一般ニ「エコノミー」ト名ケ  
 フト曰ヒ伊太利人ハ一般ニ「エコノミヤ、ボリチカ」ト曰フ然レトモ要スルニ此  
 等ハ皆「ミル」其他英人ノ一般ニ使用スル名辭ト實ハ一ナリ獨逸語ノ「ボリチツシ  
 ヲ」ハ「エコノミー」モ亦然リ CHD 純粹ノ獨逸語ニテモ或ハ「ワキル」トシヤフツレ  
 CHD 獨逸語ノ「ボリチツシエー」ハ「エコノミー」ハ希臘語ヨリ出ラタルモノニ  
 テテ純粹ノ獨逸ニ非ス外國出ノ語ヲ用フルハ一時獨逸ニ於テ國粹保存論者

ナルヤ否ヤ或ハ一種ノ權利ナルヤ否ヤ又營業ト分離シテ處分スルコトヲ得ル  
 ヤ否ヤハ總テ營業地ノ法律ニ依リテ之ヲ定ムヘキモノトスルニ關シテハ  
 次ニ船舶ニ關スル沙外の問題ヲ説明スヘシ  
 船舶ニ關スル物權ノ準據法ニ付キ從來訴訟地法ヲ適用スヘトノ說多キニ居  
 リシカ今日ニ至リテハ「ワグネル」氏ヲ除クノ外殆ト之ヲ唱フル者ナシ而シテ現  
 今ノ實例及ヒ學說ハ二派ニ岐ル一ハ船舶ノ本國法ヲ適用スヘシト曰フモノニ  
 シテ一ハ船舶所在地ノ法律ヲ適用スヘシト曰フモノ是ナリ船舶所在地法說ノ  
 理由トスル所ハ船舶ヲ以テ一般ノ動產ト其性質ヲ同シウストスルニ在リ予ヲ  
 以テ之ヲ觀ルニ船舶カ普通ノ動產ト其性質ヲ同シウストハ固ヨリ言フヲ  
 然タズト雖モ其普通ノ動產ト異ナリタル規定ニ服スル所以ノモノハ畢竟經濟  
 上ノ關係ニ基因スルモノナリ故ニ國際私法上其準據法ヲ研究スルニ方リテモ  
 亦經濟上ニ於ケル船舶ノ地位ヲ顧慮セサルヘカラス然ルニ船舶所在地法說ハ  
 此點ニ著眼セタルシメナス船舶ハ常ニ其所在ヲ轉スルモノナルカ故ニ其所  
 在地ノ法律ニ依リテ物權問題ヲ決定センカ同一ノ船舶上ニ權利ノ衝突ヲ見ル

ニ要ルヘシニシテ、其時對國籍ノ規定ニ依リ、領土ニ歸屬スル者ニ見  
 本國法說ヲ唱フル學者ノ論據トスル所ハ一ナラス或ハ人格假定論ヲ根據トス  
 ル者アリ曰ク船舶ハ人ト同ク國籍ヲ有シ名ヲ有シ又住所船籍港ヲ有スルモ  
 シニシテ人ニ關スル身分ノ問題カ人ノ本國法ニ依リテ決セラルル如ク船舶ニ  
 關スル物權問題モ亦其本國法ニ依リテ管轄セラレタルヘカラスト此說ハ「  
 人」ガ既ニ取セシ如ク全ク比喩ヲ誤ルモノナリ又領土假定說ヲ根據トスル者ア  
 リ其說ニ依レハ船舶ハ領土ノ延長物ト看做スヘキモノニシテ領土内ニ一國ノ  
 主權カ行ハルルト同シク船舶ニモ本國ノ主權カ行ハルルカ故ニ之ニ關スル物  
 權問題モ亦本國法ニ依ルヘキモノナリト然レトモ船舶カ領土ノ一部分ト看做  
 サルヘキ場合ハ其公海又ハ外國ノ領海ヲ航行スル場合ノミニシテ大陸主權外  
 國ノ領海殊ニ其港灣ニ碇泊シタル場合ニハ其國ノ主權ニ服從スルヲ原則トス  
 然レ此論據ニシテ誤ラストスルモ船舶ニ關スル物權問題ハ領土内ニ起リタル  
 法律行為ノ問題ニアラスシテ領土其モノタル船舶ノ運命ヲ左右スル問題ナリ故  
 ニ右ノ前提ヨリ本國法ヲ適用スヘイトノ結論ヲ爲スコト能ハス予ヲ以テ之ヲ

觀ルニ船舶ハ本國ノ經濟ニ大關係アルノミナラス船舶ニ關スル法律關係ノ中  
 心ハ其本國ナリ例ヘハ船舶債權者船舶所有者又ハ船舶ニ對スル其他ノ物權共  
 有者ハ多ク船舶ノ本國ニ住スルモノナルカ故ニ船舶ニ關スル物權ノ消長問題  
 モ亦法律關係ノ中心タル本國ノ法律ニ依リテ決セラルヘキモノトス或ハ本國  
 法ニ依ルトキハ外國ニ於テ船舶ヲ處分セントシ又ハ其上ニ物權ヲ設定セント  
 スルニ際シ相手方ハ本國法ヲ知ラサルカ爲メ契約ノ當事者ト爲ルコトナカル  
 ヘク隨テ船舶其モノノ爲メニ却テ不利益ト爲ルヘシト曰フ者アレトモ此說ハ  
 領事制度ノ發達セル今日ニ於テハ畢竟杞憂ニ屬ス  
 船舶ノ本國法トハ其掲タル國旗ノ屬スル國ノ法律ヲ謂フ今此本國法ニ依リテ  
 管轄セララルヘキ事項ヲ概括スレハ左ノ如シ即チ船舶ニ對スル物權ノ種類及ヒ  
 其内容、物權得喪ノ原因及ヒ方式、船舶債權者ノ追及權、船舶債權者ノ先取特權及  
 ヒ順位、船舶共有者間ノ法律關係是ナリ物權ヲ第三者ニ對抗スルカ爲メニ公示  
 要スルヤ否ヤノ問題並ニ其方法ノ如キハ船舶ノ本國法ニ依リテ管轄セララル  
 ヘキモノトス次ニ抵當權ノ登記ヲ要スルヤ否ヤノ問題モ亦本國法ニ依リテ決

定セラルル船舶ニ對スル先取特權ニ付テハ從來異論アリシ所ナレドモ、アントガ  
 ニルベン萬國會議以來本國法ニ依リテ決定スヘシトシテ、說多キヲ占ムルニ至レ  
 リ然ルニ船舶ノ被保險額ハ船舶抵當權者ニ移ルヤ否ヤノ問題ニ付テハ各國ノ  
 制度及ヒ學說二分セリ例ヘハ佛蘭西商法及ヒ我舊商法ニ依レハ被保險額ハ船  
 舶ノ沈没ト同時ニ抵當權者ニ移轉スルモ英國ノ制度及ヒ學說ハ之ヲ非認セリ  
 然ルニ、アントウエルベン萬國會議ニ於テハ此問題ヲ以テ抵當權ノ範圍ニ屬ス  
 ルモノト爲シ本國ノ法律ニ依リテ決定スヘキモノト爲セリ  
 抵當權又ハ質權ハ船舶ノ本國法ニ依リテ管轄セラルヘキモノニシテ船舶カ抵  
 當權又ハ質權ノ目的物ト爲ルコトヲ得ルヤ否ヤノ問題モ亦同一ノ準據法ニ依  
 リテ決定セラルルモノトス然ルニ往來物權其モノニ付テ船舶ノ本國法ヲ適用  
 スヘシトノ意見ヲ懷クニ拘ラス其目的物ヲ定ムル標準ヲ他ノ法律ニ求ムル者  
 アリ此說ハ原因結果ノ關係ヲ全ク打破スルモノト謂フヘシ、然レドモ、其問題  
 船舶カ國籍ヲ變更シタル場合ニ舊本國法ノ下ニ存立シタル質權及ヒ抵當權其  
 他ノ物權ハ新本國法ノ下ニ於テ其效力ヲ保有スルヤ否ヤニ付テハ議論アリ或

ハ舊本國ノ下ニ存立シタル一切ノ物權ハ既得權ナルカ故ニ其效力ヲ保有スヘ  
 シト曰フ者アリ或ハ新本國法ノ規定ト抵觸セル舊本國法ノ下ニ得タル權利ハ  
 新本國法ノ公安ニ抵觸スルモノトカ故ニ之ヲ認ムヘカラスト曰フ者アリ前  
 說ハ是ナルカ如シ、然レドモ、此問題ハ舊本國ノ法律ニ依リテ決定スヘキモノト爲  
 船長ノ權利義務ノ範圍ハ船舶所在地ノ法律ニ依リテ定ムヘシト曰フ者アリ或  
 ハ船舶ノ本國法ニ依リテ此問題ヲ決定スヘシト曰フ者アリ予ヲ以テ之ヲ觀ル  
 ニ船長ハ船舶所有者ノ代理人ニ過キナルカ故ニ代理關係ノ準據法タル船舶ノ  
 本國法ニ依リテ決定スヘキモノナリトス船長ノ不行爲ニ對スル船舶所有者  
 ノ責任ハ船舶ノ本國法ニ依リテ管轄セラルヘシト曰フ者アリ或ハ訴訟  
 行爲ヲ爲シタル地ノ法律ニ依リテ此問題ヲ決定スヘシト曰フ者アリ或ハ訴訟  
 地ノ法律ニ依リテ此問題ヲ管轄スヘシト曰フ者アリ然レドモ、此問題ハ船舶  
 船舶ノ衝突ニ付テハ一國ノ領水内ニ於テ起リタル場合ト公海ニ於テ起リタル  
 場合トヲ區別シテ説明スルコトヲ要ス一國ノ領水内ニ於テ船舶ノ衝突アリタ  
 ルトキハ領水所屬國ノ法律ニ依リテ衝突ノ問題ヲ管轄スヘキコトハ古來學說

並ニ實例カ全然一致スル所ニシテ船舶國籍ノ異同ニ依リテ法理ヲ異ニセス之ニ反シテ公海ニ於ケル船舶ノ衝突ニ付テハ學說實例兩ツナカラ紛糾セリ從來最モ廣ク行ハレタル說ハ訴訟地法說ニシテ船舶衝突ニ關スル訴ノ起リタル地ノ法律ニ依リテ此問題ヲ決定セントスルモノナリ獨逸大審院ノ如キハ民法施行前亦此說ヲ採用セリ我國ニ於テモ學者中往往之ヲ唱フル者アリ(法例ニ規定ナキ場合ニ於テ何レノ國ノ法律ヲ適用スヘキヤノ說明ヲ參照スヘシ然ルニ訴訟地法說ハ近來獨逸ニ於テモ既ニ陳腐ナリトシテ學者ノ排斥スル所ト爲レリ蓋シ訴訟地ハ偶然ノ事實ニ因リテ隨意ニ衝突問題ヲ左右スル處アレハナリ例ヘハ被告カ自己ノ利益ナル地ニ裁判籍ヲ移シ原告モ亦其利益ナル地ヲ選ミテ訴ヲ提起スルカ如キ是ナリ是ニ於テカ或ハ萬國共通ノ法理ニ依リテ此問題ヲ決定スヘシトノ說ヲ唱フル者アリ然ルニ萬國ナル文字ノ範圍頗ル曖昧ナルノミナラス假ニ本說ノ唱道者タル「リオンカン」氏ノ本國タル佛蘭西ト交通ヲ爲ス一般ノ國ニ行ハルル規定ナリト解釋スルモ此等ノ諸國ニハ船舶ノ衝突ニ關スル同一ノ規定ナキヲ如何セン是ヲ以テ「アントウニル」萬國商法會議ニ於テ

ハ原告本國法ノ認メタル程度内ニ於テ被告ノ本國法ニ依リテ決定スヘシト決議セリ抑モ公海ニ於ケル船舶ノ衝突ニ付キ此ノ如ク種種ノ學說ヲ生シタル所以ハ他ナシ不法行爲ヲ生セタル地カ法域ニアラザレハナリ公海ニ於ケル船舶ヨリ生スル賠償請求權ノ保存方法ハ同國船間ニ在リテハ其本國法ヲ適用スル者トス異國籍ノ船舶ニ付テハ或ハ訴訟地法ニ依ルヘシト曰フ者アリ或ハ被告ノ本國法ニ依ルヘシト曰フ者アリ或ハ原告ノ本國法ニ依ルヘシト曰フ者アリ軍艦ト船舶トノ衝突ハ領水内ニ起リタル場合ニハ領水所屬國ノ法律ヲ適用ス之ヲ解釋スル者ハ曰ク軍艦ノ限外法權ハ軍艦内ニ起リタル事件ニ關スルノミニシテ軍艦外ニ起リタル出來事ニ及ハスト此說ニシテ果シテ正當ナラハ公海ニ於ケル軍艦ト船舶トノ衝突モ亦船舶ト船舶トノ衝突ニ異ナラサルヘシ而ルニ「バー」軍艦ノ本國法ニ依ルヘシト曰ヘリ海損ノ準據法ニ付テハ中世以來一般ニ發航地法說ヲ採用セリ然ルニ發航地ハ積荷ノ場所ノ異ナルニ從ヒ同一ナルコトヲ得タルカ故ニ海損ノ準據法カ統一的ナラザル處アリ是ニ於テカ船舶ノ到達地ニ行ハルル法律ニ依リテ此問題ヲ

決定スヘシトノ説ヲ生スルニ難レリ此點ハ今日歐洲大陸ノ學者間ニ勢力アル所ナリ蓋シ到達地ハ唯一ナルノミナラス海損ノ計算ヲ爲ス地モ亦船舶ノ到達地ナルヲ例トスレハナリ然ルニ此說ニモ亦缺點アリ何トナレハ到達地ハ往往偶然ノ事情ニ因リテ定マルモノナレハナリ例ヘハ避難港ノ如キ又ハ數多ノ到達地ヲ出帆後ニ選定セラレタル場合ノ如キ是ナリ此等ノ場合ニ於テ尙ホ海損ノ問題ヲ到達地ノ法律ニ依リテ定ムンカ海損ノ問題ハ偶然ノ事實ニ依リテ決定セララルニ至ルヘシ是ヲ以テ船舶ノ本國法ニ依リテ此問題ヲ管轄スヘシトノ説ヲ爲ス者アリ就中リオンカン氏ハ此說ヲ理由トシテ左ノ如ク説明セリ曰ク海損ノ問題ハ多クハ公海ニ於テ起ルモノナルヲ故ニ到達地ノ法律ヲ標準トスルノ理由ヲ見ス又海損ノ利害關係者ハ何レモ本國法ニ著目スルカ故ニ本國法ヲ適用スルハ利害關係者ノ意思ニ適合スル所以ナリト予ヲ以テ之ヲ觀ルニ船舶ノ本國法ハ船舶ニ關スル法律關係ノ中心ナルカ故ニ此法律ヲ適用スルハ利害關係者ノ爲メニ最モ公平ナルモノト謂フヘシ然ルニ本國法說ハアントウエルベン萬國會議ノ際大ニ非難ヲ受ケタリ就中船舶ノ本國法ヲ知ルハ頗ル難

難ナリトノ非難航海中他ノ國ニ屬スル船舶ニ貨物ヲ轉載スルコトアリトノ非難ハ最モ有力ナルモノノ如シ而シテ此反對說ノ爲メニリオンカン氏一派ノ提出シタル本國法案ハ否決セラレ萬國會議ハ遂ニ積荷ヲ荷卸スル地ノ法律ヲ適用スヘキ旨ヲ議決セリ然レトモ此說ニモ亦缺點アリ何トナレハ貨物ヲ荷卸スルノ地ハ偶然ノ事實ニ因リテ定マルコト頗ル多クレハナリ例ヘハ荷主カ航海中荷卸地ヲ指定シタル場合ノ如キ又船長カ避難ノ爲メニ豫定ノ地以外ニ荷卸シタル場合ノ如キ是ナリ

船舶ノ救助ハ依頼ニ因ラサル場合ニ於テハ事務管理ナリ是レ多數學者ノ唱フル所ニシテ予輩モ亦認ムル所ナリ隨テ一國ノ領水内ニ起リタル船舶ノ救助ニ付テハ領水所屬國ノ法律ヲ適用スヘキモノナリ此點ハ學說實例共ニ一致スル所ナリ然ルニ公海ニ於ケル船舶ノ救助ニ付テハ種種ノ議論アリ先ツ此問題ヲ決定セント欲セハ公海ニ於ケル船舶ノ救助ハ公海ニ於ケル事務管理ナリヤ否ヤノ問題ヲ決セタルヘカラス學者ハ往往公海ニ於ケル事務管理ナリト斷定シ或ハ訴訟地法或ハ原告ノ本國法或ハ被告船カ最初ニ入港シタル地ノ法律



ヲ適用スヘトノ說ヲ爲ス者アリ然ルモ予ヲ以テ之ヲ觀ルニ公海ニ於ケル被  
 救助船ヲ安全港ニ入ラシメタル場合ニ於テ始メテ救助ノ目的ヲ達シタルモノ  
 ナルカ故ニ事務管理ノ地ヘ一國ノ領海ナリ隨テ此場合ニモ領海所屬國ノ法律  
 ヲ適用スヘキモノト信ス或ハ被救助船ハ救助船ニ添附シタルモノナルカ故ニ  
 救助船ノ本國法ヲ適用スヘトノ說ヲ爲ス者アリ千八百八十八年萬國商法會  
 議ハ此說ヲ是認セリ

一國ノ領海内ニ於ケル被救助船ノ救助ノ義務ハ該國ノ法律ニ依リテ定ムルコトナリ然レドモ公海ニ於ケル被救助船ノ救助ノ義務ハ該國ノ法律ニ依リテ定ムルコトナリ然レドモ公海ニ於ケル被救助船ノ救助ノ義務ハ該國ノ法律ニ依リテ定ムルコトナリ

一國ノ領海内ニ於ケル被救助船ノ救助ノ義務ハ該國ノ法律ニ依リテ定ムルコトナリ然レドモ公海ニ於ケル被救助船ノ救助ノ義務ハ該國ノ法律ニ依リテ定ムルコトナリ

國際私法

三十三年皮爾德

山口弘一講述

國際私法

和佛法律學校發行



法律學雜誌

# 國際私法

山口 一編

三十三號

## 國際私法目次

### 緒言

- 一編 總論..... 一
- 第一章 國際私法ノ定義及ニ性質..... 一五
- 第二章 國際私法ノ名稱..... 一八
- 第三章 國際私法ノ沿革..... 二五
- 第四章 國際私法ニ關スル新說及ニ其批評..... 三六
- 第五章 法例ト國際私法トノ關係..... 四二
- 第六章 國際私法ノ研究法..... 四三
- 第七章 國際私法ノ研究ト他ノ學科トノ關係..... 四三
- 第八章 國際私法ノ著述..... 四五
- 第九章 國籍..... 四五
- 第一節 總論..... 四五

國際私法目次

國籍法 第二章 第六節

第二節 國籍ノ取得及ヒ喪失……………九三

第一款 出生ニ因ル國籍ノ取得……………九三

第二款 第一項 論……………九三

第三款 第二項 嫡出子……………九七

第四款 第三項 私生子……………一〇〇

第五款 第四項 父母ノ分明ナラサル子……………一〇二

第六款 第二款 生後ノ事實ニ因ル國籍ノ取得……………一〇四

第七款 第一款 養子縁組……………一〇四

第八款 第二款 歸化……………一〇六

第九款 第三款 領地割讓……………一三三

第十款 第四項 國籍ノ選擇……………一三九

第十一款 第三款 國籍ノ喪失……………一四〇

第十二款 第一款 總論……………一四〇

第十三款 第二款 第六項 住……………一四一

第十三款 第三款 外國ノ任官……………一四二

第十四款 第四項 時效……………一四四

第十五款 第五項 婚姻……………一四五

第十六款 第六項 追放……………一四七

第十七款 第七項 開戦又ハ開戦ノ虞アル際歸國ノ命令ニ從ハサル者ノ國籍剝奪……………一四八

第十八款 第八項 兵役忌避……………一四九

第十九款 第九項 準嫡及ヒ認知……………一四九

第二十款 第十項 國籍ノ解除……………一五一

第二十一款 第十一項 外國ノ勳章又ハ爵位ヲ受ケタルカ爲メニ國籍ヲ喪失スル例……………一五二

第二十二款 第十四款 國籍回復……………一五七

第二十三章 外國人ノ地位……………一六六

第二十四章 第十一項 住所……………一七五

第十二章 國際私法上ニ於ケル外國法ノ性質

及ヒ其適用ノ範圍 一九五

第十三章 反定法及ヒ轉定法

二二九

第十四章 法律行為ノ方式

二二九

第二編 各論

第一章 人

第一節 權利能力 二五七

第一款 自然人ノ權利能力 二五七

第二款 法人ノ權利能力 二六二

第三款 權利能力ノ消滅 二七〇

第二節 行為能力 二七八

第二章 債權

第一節 法律行為ニ因ル債權 二九七

第二節 不法行為ニ因ル債權 三〇一

目次

第三節 債權讓渡ノ效力 三〇八

第四節 隔地の法律行為 三〇九

第三章 物權及ヒ準物權

第一節 物權 三一〇

第二節 準物權 三一八

第一款 著作權 三一八

第二款 工業所有權 三二七

第四章 親族

第一節 婚姻豫約 三三六

第二節 婚姻ノ成立 三三七

第三節 婚姻ノ方式 三三九

第四節 婚姻ノ效力 三四〇

第一款 身體ニ對スル效力 三四〇

第二款 財產ニ對スル效力 三四二

第五節 離婚……………三四五

第六節 親子關係……………三四八

第一款 子ノ身體ニ對スル親權……………三四八

第二款 子ノ財産ニ對スル親權……………三四九

第七節 養子縁組……………三五〇

第八節 嫡出子……………三五二

第九節 私生子……………三五四

第十節 扶養ノ職務……………三五五

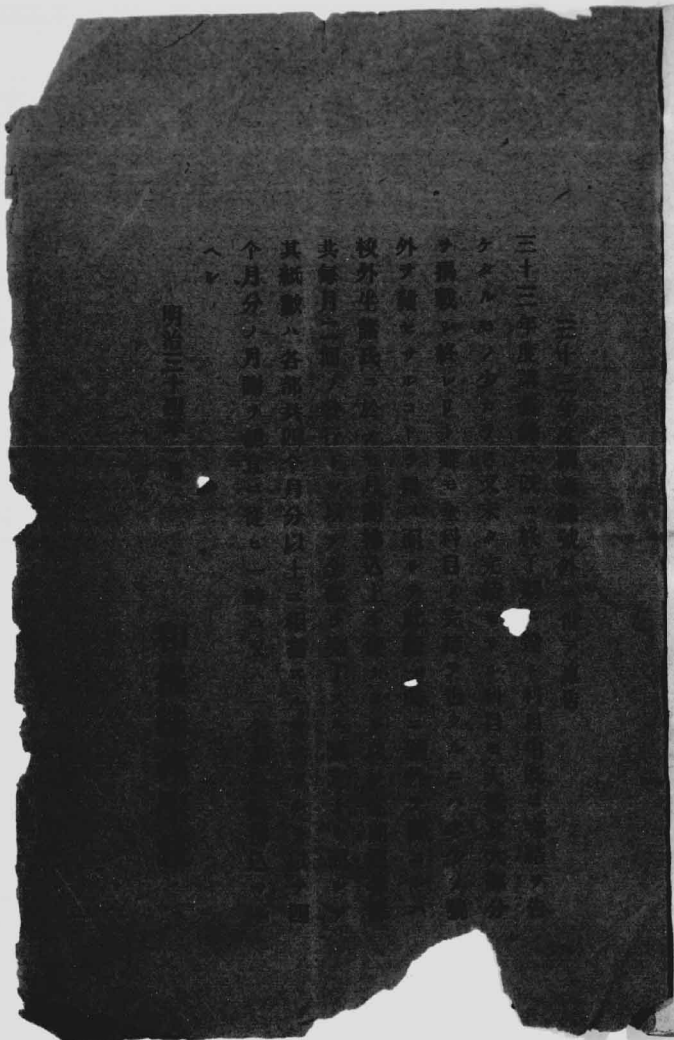
第十一節 親族關係ニ關スル準據法ノ補則……………三五七

第十二節 後見……………三五八

第五章 相続……………三五九

第六章 商事關係……………三六〇

國際私法目次終



三十三  
ケナル  
外ア  
其紙  
个月分

第五節 離婚……………三四五

第六節 親子關係……………三四八

第一款 子ノ身體ニ對スル親權……………三四八

第二款 子ノ財産ニ對スル親權……………三四九

第七節 養子縁組……………三五〇

第八節 嫡出子……………三五二

第九節 私生子……………三五四

第十節 扶養ノ職務……………三五五

第十一節 親族關係ニ關スル準據法ノ補則……………三五七

第十二節 後見……………三五八

第五章 相続……………三五九

第六章 商事關係……………三六八

國際私法目次終

三十三年度講義錄號外ニ付テ稟告

三十三年度講義錄ハ既ニ終了期ニ達シ科目中既ニ完結ヲ告ケタルモノ少カラス又未タ完結セサル科目モ大抵其大部分ヲ掲載シ終レリト雖モ全科目ノ完結ヲ告クルニハ多少ノ號外ヲ發セサルコトヲ得ス而シテ此際一時ニ號外ヲ發スルハ校外生諸氏ニ於テモ月謝拂込上不便ナルヲ以テ従前通各部共毎月二回ノ發行トシ以テ全部ヲ完了スル豫定ナリ而シテ其紙數ハ各部共四個月分以上ニ相當スルモノアルヲ以テ四個月分ノ月謝ヲ便宜ニ從ヒ一時ニ又ハ一個月分宛拂込マルヘシ

明治三十四年一月

和佛法律學校

校外生規則摘要

講義録各部毎月二回發行シ滿一今年ヲ以テ卒業トス

一個年ヲ以テ完了セザルトキハ随外ヲ發ス

講義録之ヲ三部ニ分ツ其發行定日左ノ如シ

第一部 毎月 五日 二十日

第二部 毎月 十五日 廿五日

第三部 毎月 十五日 三十日

月謝金ハ全部書圖、各一部四十錢トス但シ入學金ヲ要セズ

校外生ハ本校講議會、討論會ニ出席傍聽スルコト及シ本校ノ出版ニ係ル書籍雜誌ハ特別ノ廉價ヲ以テ購求スルコトヲ得

校外生全部卒業證書ヲ有スル者ハ試験ノ上校

内生三年級ニ編入セラルコトヲ得

校外生ハ講義録中ノ疑義ニ付キ質問スルコトヲ得問題ハ一問毎ニ別紙ニ認メ且一問毎ニ返

信用郵券ヲ封入スルコトヲ要ス

三ヶ月以上月謝不納ノ者ハ退學者ト看做ス

月謝ハ東京飯田町郵便支局拂和佛法律學校會計係宛トスヘシ

明治廿二年十二月九日内務省許可

明治三十四年一月廿一日印刷

明治三十四年一月廿五日發行

東京市四谷區西仲町三丁目六番地

編輯者 小田幹治郎

東京市芝區四ノ久保明虎町十一番地

印刷者 金子鐵五郎

東京市芝區四ノ久保明虎町十一番地

印刷所 金子活版所

東京市麹町區富士見町六丁目十六番地

發行者 司法省 和佛法律學校

(電話番町百七十四番)